
那珂市まち・ひと・しごと創生

総合戦略

(案)

平成 27 年 10 月（初版）

那 珂 市

目 次

| | |
|--------------------------------------|----|
| 序. 人口ビジョン・総合戦略策定について..... | 1 |
| (1) 目的および位置づけ | 2 |
| (2) 対象期間..... | 2 |
| I. 人口ビジョン | 3 |
| 1. 人口の現状分析..... | 4 |
| (1) 人口推移..... | 4 |
| (2) 年代別人口 | 4 |
| (3) 地区別人口 | 6 |
| (4) 社会動態..... | 7 |
| (5) 自然動態..... | 9 |
| (6) 社会動態と自然動態の関係 | 10 |
| (7) 未婚率および晩婚化..... | 11 |
| (8) 結婚・出産・子育てに関する市民意識（アンケート結果） | 12 |
| (9) 高校生の将来意識（アンケート結果） | 18 |
| (10) 給与収入 | 21 |
| (11) 産業別人口..... | 22 |
| (12) 産業構造 | 25 |
| (13) 総生産額..... | 26 |
| (14) 通勤・通学による人口動態..... | 27 |
| (15) 昼夜間人口比率 | 28 |
| (16) 商圈・余暇圏..... | 29 |
| 2. 将来人口の推移と分析..... | 30 |
| (1) 将来人口推計..... | 30 |
| (2) 人口減少が地域に与える影響..... | 36 |
| 3. 人口の将来展望..... | 38 |
| (1) 将来展望人口算出にあたっての人口推計 | 38 |
| (2) 目指すべき将来方向..... | 39 |

| | |
|--------------------------------------|-----------|
| (3) 将来展望人口算出 | 40 |
| II. 総合戦略 | 43 |
| 1. 基本的な考え方..... | 44 |
| (1) 総合戦略策定に向けた基本的な考え方..... | 44 |
| (2) 総合戦略に基づく施策の立案・実行にあたっての基本方針 | 47 |
| 2. 総合戦略の展開方向 | 49 |
| (1) 基本戦略..... | 49 |
| (2) 目指す方向 | 50 |
| 3. 4つの戦略..... | 51 |
| 戦略1「安定した雇用の創出戦略」 | 51 |
| (1) 基本的な方向..... | 51 |
| (2) 施策体系..... | 52 |
| (3) 具体的な施策内容 | 52 |
| 戦略2「那珂市への人口還流戦略」 | 54 |
| (1) 基本的な方向..... | 54 |
| (2) 施策体系..... | 54 |
| (3) 具体的な施策内容 | 55 |
| 戦略3「結婚・出産・子育て応援戦略」 | 57 |
| (1) 基本的な方向..... | 57 |
| (2) 施策体系..... | 58 |
| (3) 具体的な施策内容 | 58 |
| 戦略4「時代にあった地域の創造戦略」 | 62 |
| (1) 基本的な方向..... | 62 |
| (2) 施策体系..... | 63 |
| (3) 具体的な施策内容 | 63 |

序. 人口ビジョン・総合戦略策定について

序. 人口ビジョン・総合戦略策定について

(1) 目的および位置づけ

我が国では、急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、日本全体、特に地方の人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保し、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくことが喫緊の課題であり、その課題を解決するため「まち・ひと・しごと創生法」を制定しました。また、平成 26 年 12 月 27 日には、日本の人口の現状と将来の姿を示し、国と地方が総力を挙げて取り組む上での指針となる「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（以下「長期ビジョン」という。）」およびこれを実現するため、今後 5 か年の目標や施策、基本的な方向を提示する「まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「国の総合戦略」という。）」を策定し、閣議決定しています。

さらに、国では、課題解決のためには、国と地方が一体となり中長期的視点に立って取り組む必要があるとし、各市町村に対し平成 27 年度中に各地域の実情に応じた「地方版まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」という。）」の策定を努力義務として求めています。

こうした状況のもと、那珂市においても、人口減少の抑制や地域の活性化に向けて、人口の現状と将来の展望を提示する人口ビジョンを策定するとともに、地域の実情に応じた今後 5 か年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめ、「総合戦略」の策定をすることとなったものです。

総合戦略では、第 1 次那珂市総合計画を基本としながら、水戸市周辺地域のベッドタウンとしての地域特性を踏まえ、本市の持つ「住みやすい市」(※)という強みや、豊かな自然環境、肥沃な那珂台地に広大な農用地を有する特色をいかし、人口ビジョンの将来展望を実現する新たな方向性や施策を示します。また、この総合戦略に基づき、地域経済の活性化・人口減少の抑制のため、「那珂市に住んでいてよかった」「那珂市に戻ってきてよかった」と思えるような効果の高い施策を集中的に実施してまいります。

(2) 対象期間

①人口ビジョンにおける人口将来展望

国の長期ビジョンは、平成 22 (2010) 年を起点に 50 年後の平成 72 (2060) 年に 1 億人程度の人口を維持することを目指すものです。その前提は、平成 52 (2040) 年までに合計特殊出生率が 2.07 まで改善することを見込むものであり、那珂市では、平成 52 (2040) 年を当面の目標年次と定め、最終的に平成 72 (2060) 年までの人口の将来展望を行うこととします。

②総合戦略

総合戦略の対象期間は、国の総合戦略期間を踏まえ、平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 年間とします。

※那珂市は東洋経済新報社の住みよさランキング 2015 で、関東 5 位、県内 3 位の評価を得ており、平成 23 年度市民アンケートでも約 8 割の市民が住みやすいと回答しています。

I. 人口ビジョン

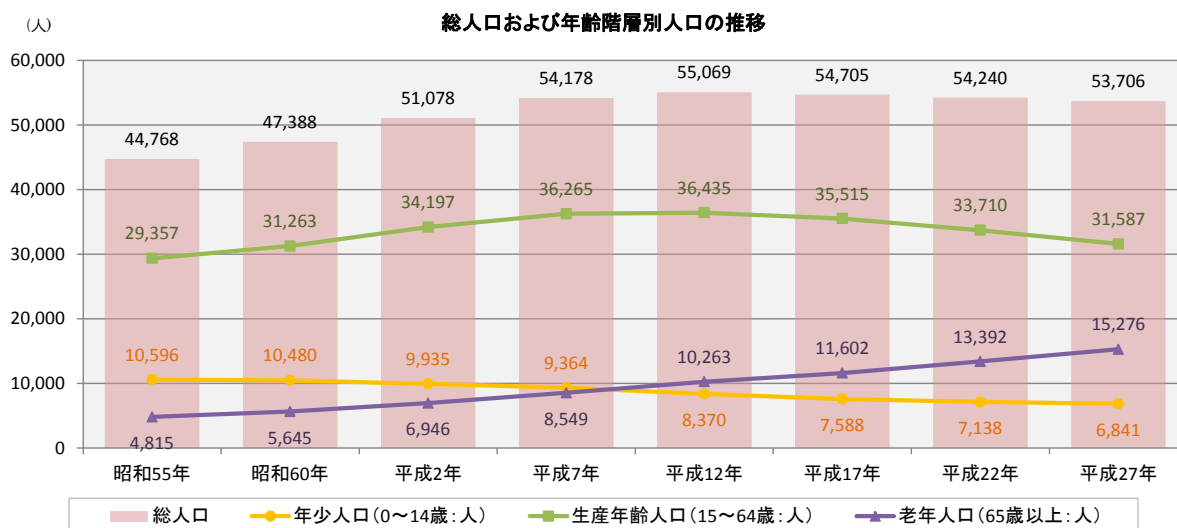
1. 人口の現状分析

(1) 人口推移

那珂市の総人口は、昭和 55 年から平成 12 年まで約 1.0%/年のペースで増加してきましたが、平成 12 年以降緩やかな減少に転じ、近年も微減傾向にあります。全国的に人口減少が進むなか、那珂市は安定的な人口を維持しているといえます。

年齢階層別人口でみると、生産年齢人口は平成 12 年の 36,435 人をピークに減少傾向が続いています。また、年少人口も緩やかな減少が続いています。

一方、老年人口は、約 3.5%/年で増加を続けており、平成 12 年には年少人口よりも多くなっています。



※昭和 55 年から平成 22 年までは、国勢調査の数値。平成 27 年は、茨城県常住人口調査（1 月）の数値です。

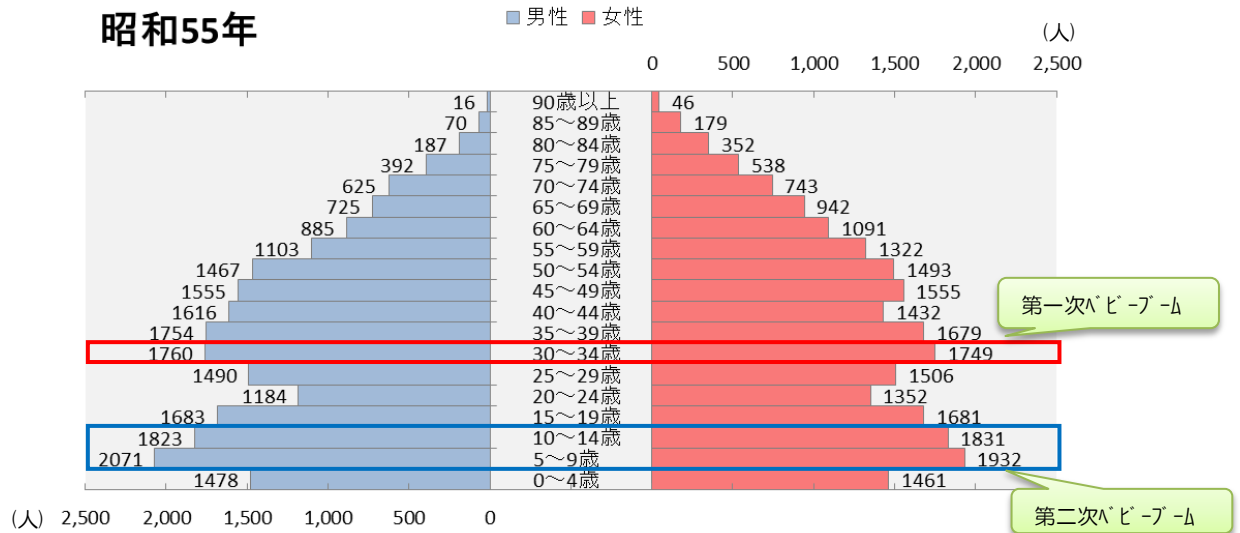
(2) 年代別人口

年代別の人口をみると、昭和 55 年においては、男女ともに 5～9 歳の人口が最も多くなっています。

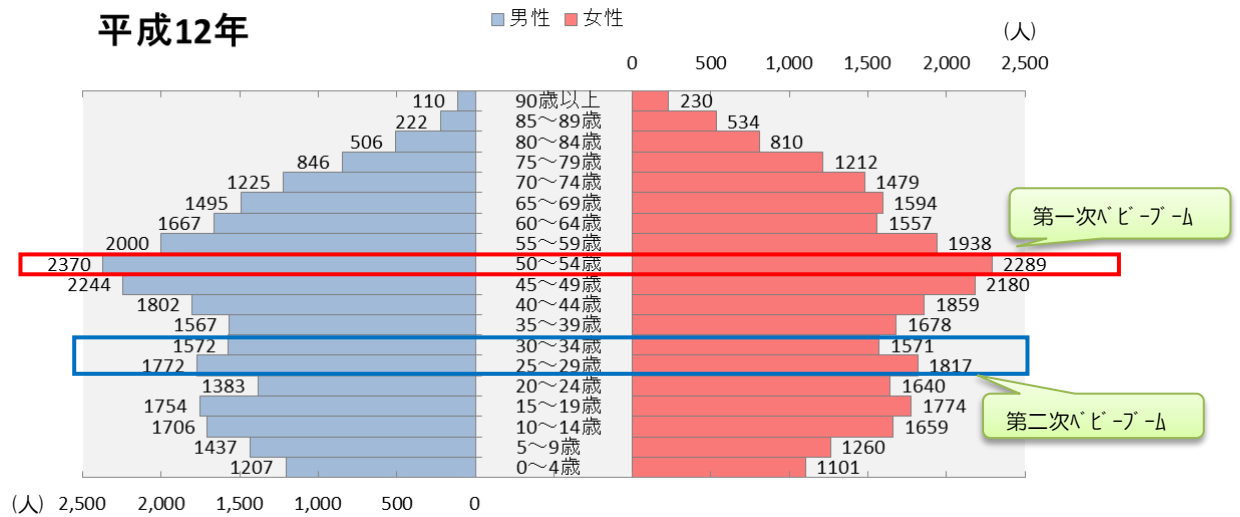
那珂市の総人口がピークを迎えた平成 12 年では、男女ともに第一次ベビーブームの人口群にあたる 50～54 歳が最も多くなっています。

平成 22 年では、上記人口群がシフトし 60～64 歳が最も多く、また、第二次ベビーブームの 35～44 歳の子育て世代が多い状況です。

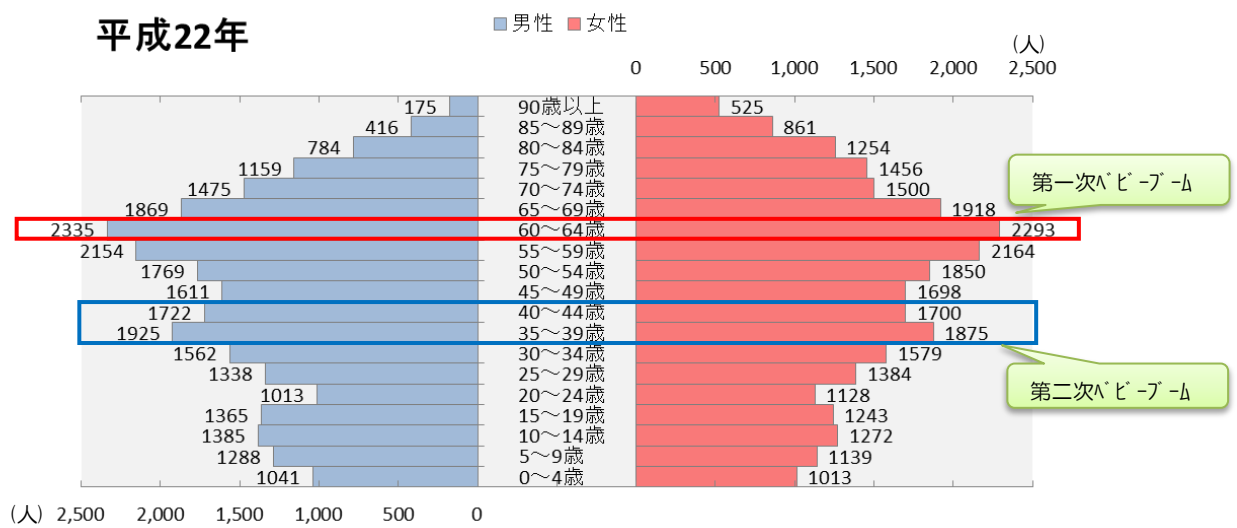
昭和55年



平成12年



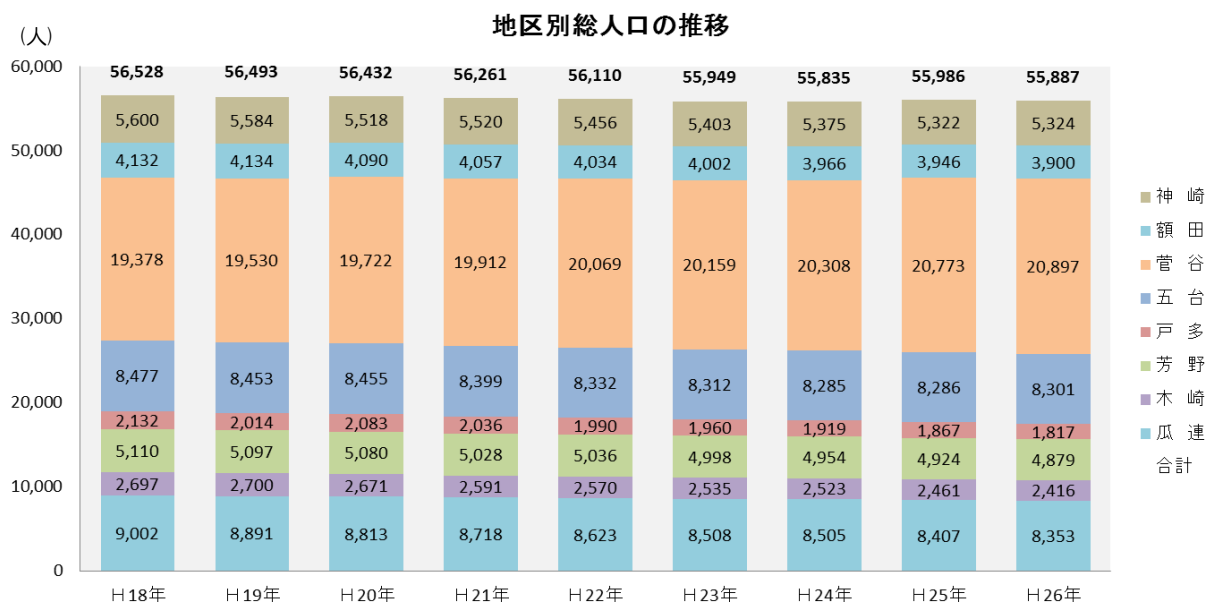
平成22年



※国勢調査の数値です。

(3) 地区別人口

旧那珂町と旧瓜連町が合併した翌年の平成 18 年からの 9 年間の地区別人口をみると、市街化区域の中心である菅谷地区のみ緩やかな増加傾向ですが、それ以外の地区は横ばいか減少傾向にあります。



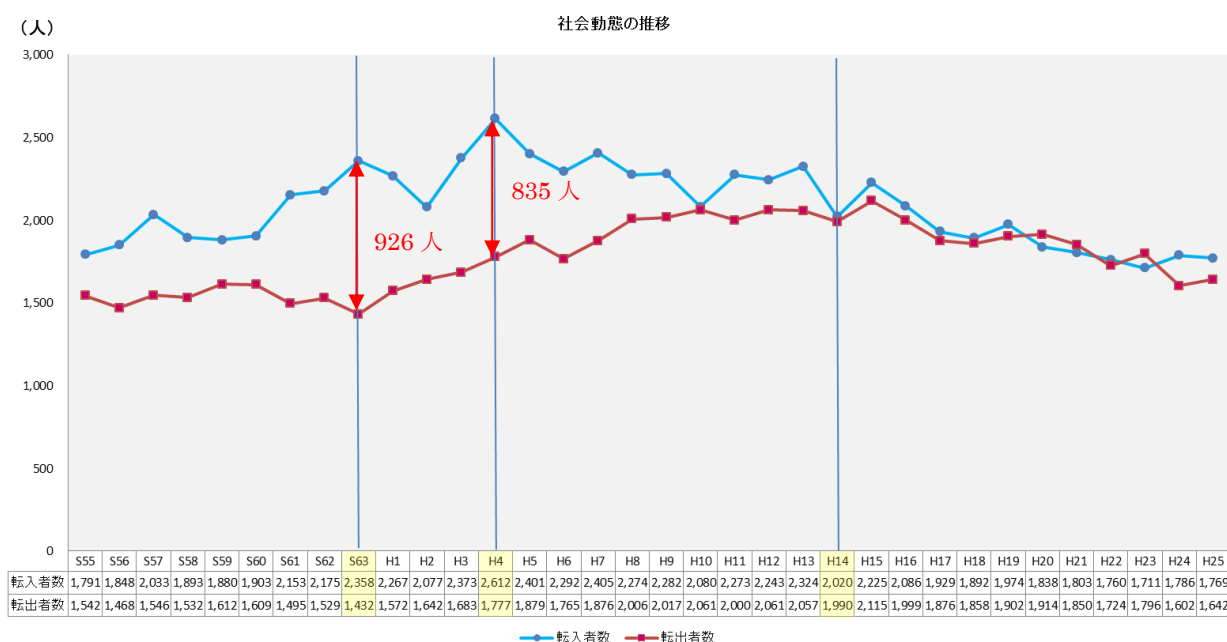
※平成 18 年から平成 26 年の住民基本台帳の数値（4 月 1 日時点）です。

(4) 社会動態

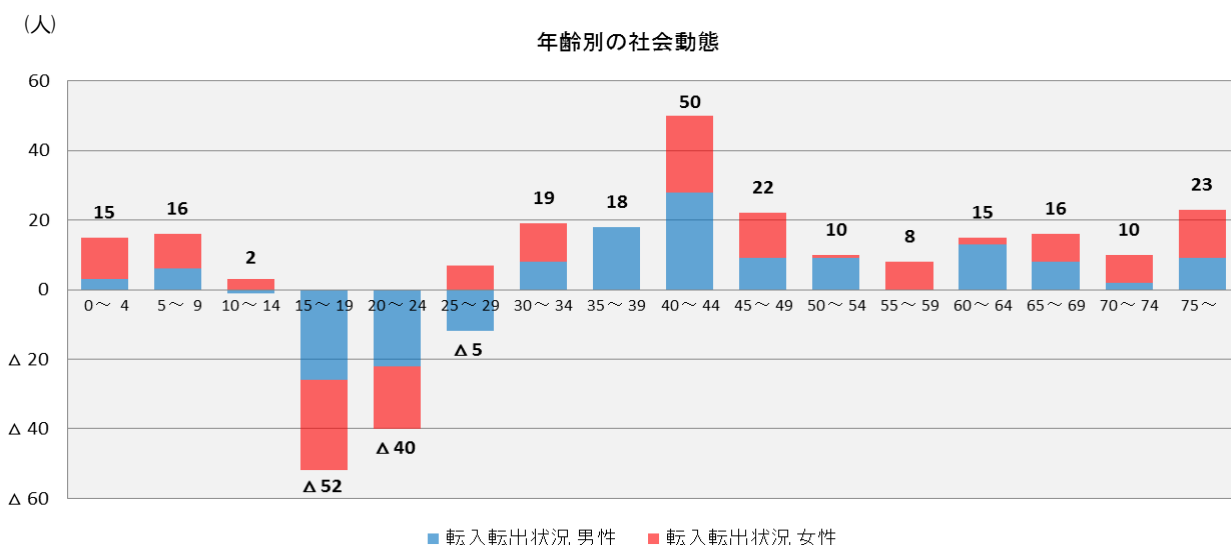
昭和 63 年の 926 人、平成 4 年の 835 人など大幅な転入超過の状況にありましたが、平成 14 年以降は、転入者と転出者が拮抗する状態が続いています。

直近の 10 年間（平成 15～25 年）においては、年平均で約 20 人の社会増加となっています。

年代別の転入・転出者数（平成 25 年）は、15～24 歳の若者の転出超過が顕著です。一方、30 歳より上の世代では、転入超過の状態にあります。

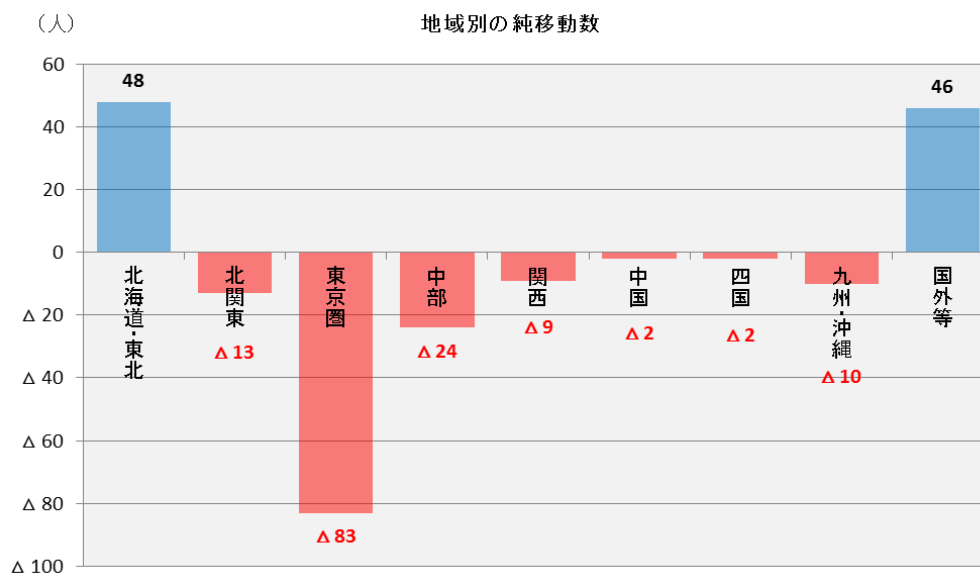


※昭和 55 年から平成 25 年度までの茨城県常住人口調査の数値です。



※茨城県常住人口調査の男女・年齢（5 歳階級）別死亡、転入および転出者数（平成 25 年）の数値です。

平成 25 年の転入転出の純移動数を地域別にみると、転出先は東京圏が最も多く 83 人、転入先は北海道・東北が最も多く 48 人となっています。



※平成 25 年の茨城県常住人口調査の数値です。

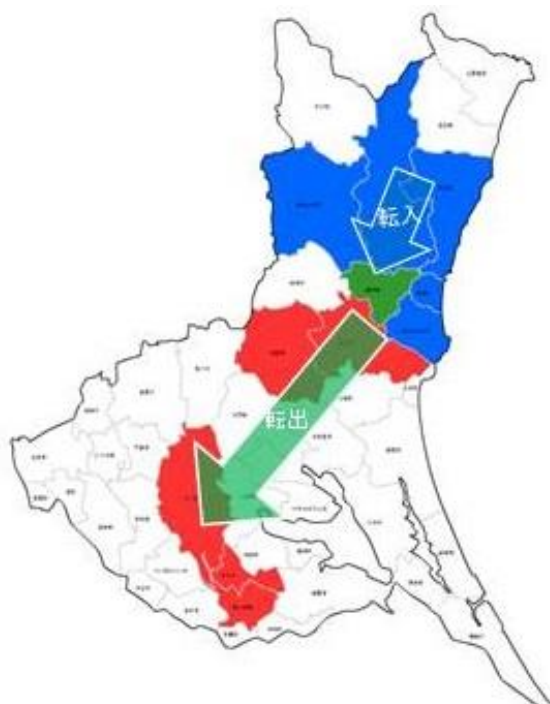
直近 2 年間（平成 24～25 年）の県内の転入転出の平均の純移動数をみると、常陸大宮市 55 人、日立市 48 人など県北地域からの転入超過となっています。

一方、転出超過が最も大きい地域は 24 人の水戸市であり、次いでつくば市 11 人、笠間市・牛久市・龍ヶ崎市が 4 人と県央・県南地域への転出超過となっています。

那珂市における県内市町村別純移動数ランキング（平成 24～25 年平均）

| | 市町村名 | 転入数 | 転出数 | 増減数 |
|------|--------|-----|-----|------|
| 1 位 | 常陸大宮市 | 113 | 58 | 55 |
| 2 位 | 日立市 | 117 | 69 | 48 |
| 3 位 | ひたちなか市 | 264 | 227 | 37 |
| 4 位 | 常陸太田市 | 123 | 87 | 36 |
| 5 位 | 東海村 | 74 | 49 | 25 |
| ⋮ | | | | |
| 40 位 | 牛久市 | 7 | 11 | △ 4 |
| | 龍ヶ崎市 | 3 | 7 | △ 4 |
| 42 位 | 笠間市 | 29 | 33 | △ 4 |
| 43 位 | つくば市 | 23 | 34 | △ 11 |
| 44 位 | 水戸市 | 297 | 321 | △ 24 |

※平成 24、25 年の茨城県常住人口調査の数値の平均値です。

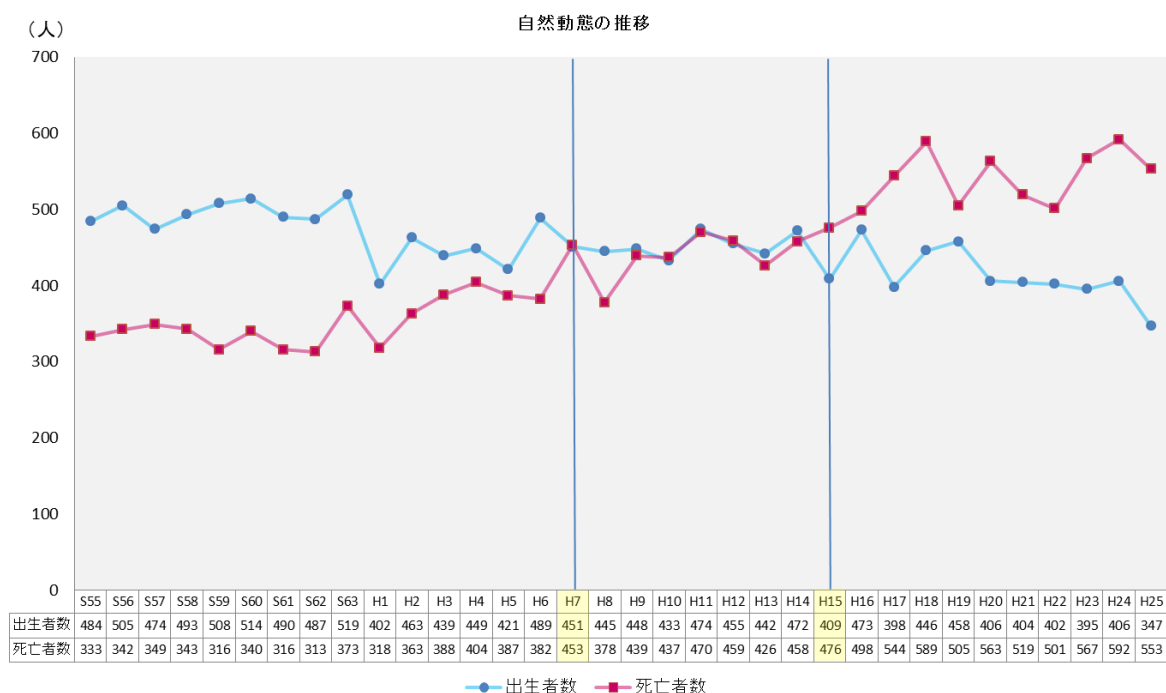


(5) 自然動態

平成 7 年以前は出生者数が死亡者数を上回る状況が続いていました。

その後、出生者数と死亡者数が拮抗する時期が続き、平成 15 年以降は、死亡者数が出生者数を上回る自然減少となっ^てています。

直近の 10 年間（平成 15～25 年）においては、年平均で約 130 人の自然減少となっ^ています。



※昭和 55 年から平成 25 年までの茨城県常住人口調査の数値です。

那珂市の合計特殊出生率は、平成 18 年までは県の合計特殊出生率を下回る傾向にありましたが、平成 19 年以降は概ね県の合計特殊出生率に近い水準にあります。

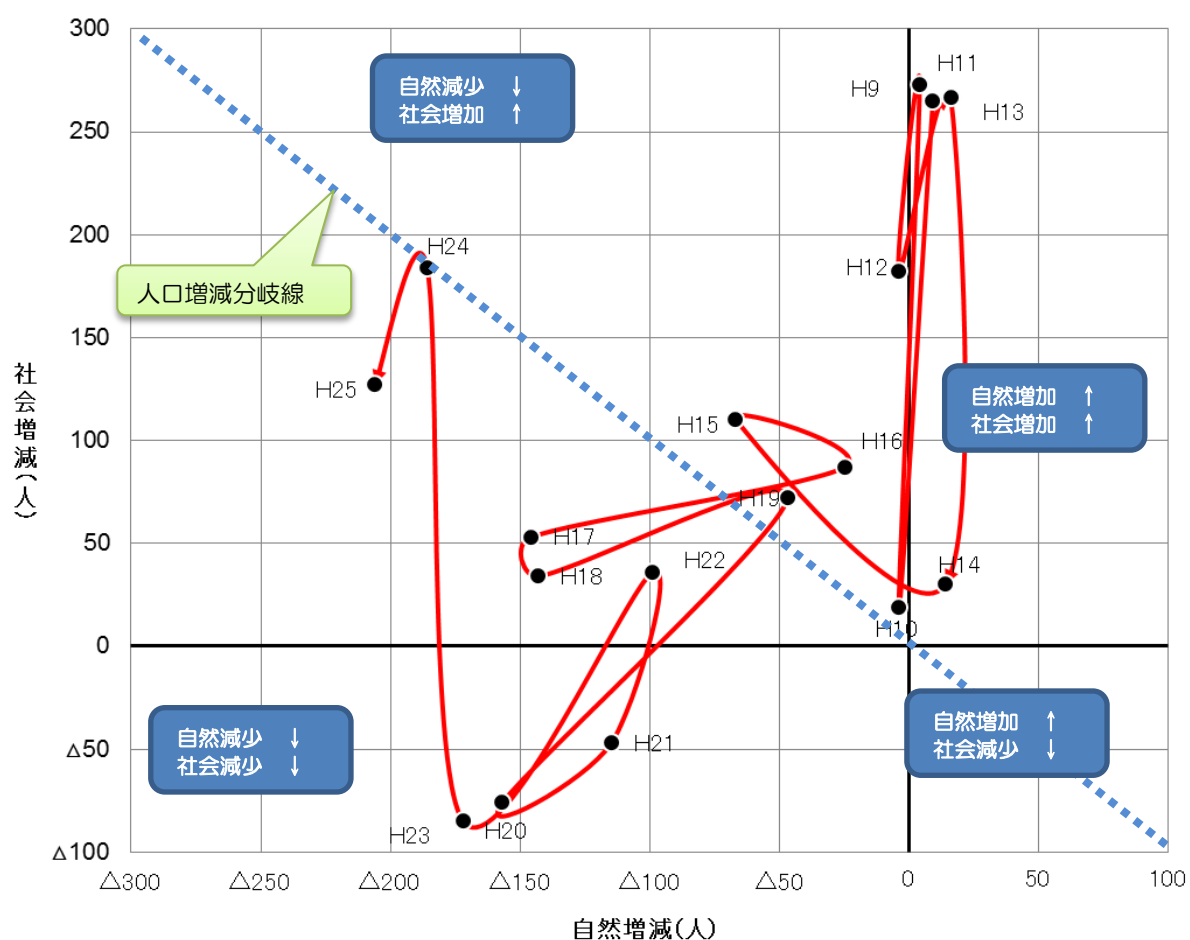
合計特殊出生率

| | H15 | H16 | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 |
|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 茨城県 | 1.34 | 1.33 | 1.32 | 1.35 | 1.35 | 1.37 | 1.37 | 1.44 | 1.39 | 1.41 | 1.42 |
| 那珂市 | 1.19 | 1.36 | 1.23 | 1.27 | 1.47 | 1.35 | 1.39 | 1.33 | 1.38 | 1.45 | － |

※平成 15 年から平成 25 年までの国勢調査、および人口動態調査の数値です。

(6) 社会動態と自然動態の関係

人口増減に与える社会動態と自然動態の関係をみると、人口の自然動態でのマイナスを社会動態のプラスが補う構図にあることがわかります（図表に記す斜線が社会増と自然減がちょうど一致するラインであり、ラインの上部に位置すれば人口は増加、下部に位置すれば人口は減少することとなります）。平成 15 年以降は自然減が続き、その規模が拡大傾向にあることがわかります。

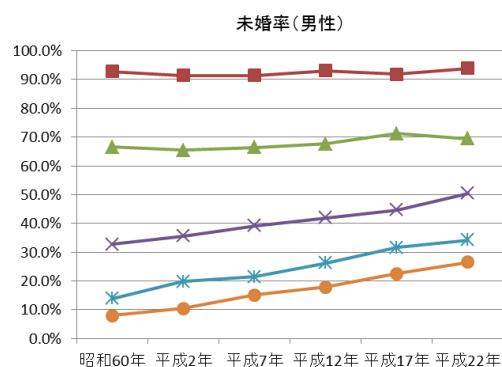


※平成 9 年から平成 25 年までの茨城県常住人口調査の数値です。

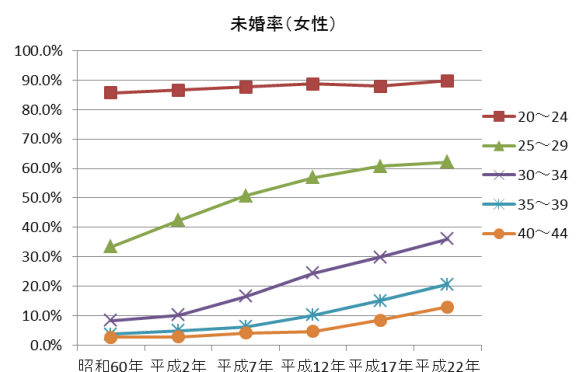
(7) 未婚率および晩婚化

未婚率の推移をみると、男性では、昭和 60 年に 30～34 歳が 32.7%だったのが、平成 22 年には 50.4%に、女性では、昭和 60 年に 25～29 歳が 33.5%だったのが、平成 22 年には 62.1%にそれぞれ上昇し、男性・女性とも各年代の未婚率は上昇傾向にあります。

初婚年齢の推移をみると、平成 17 年から平成 24 年の間に男女とも 1 歳弱上昇しており、未婚率の上昇とあわせてみると、晩婚化の進行がみられます。



| 年齢 | 昭和60年 | 平成2年 | 平成7年 | 平成12年 | 平成17年 | 平成22年 |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 15 ～ 19 | 99.6% | 99.1% | 99.6% | 99.5% | 99.5% | 99.9% |
| 20 ～ 24 | 92.8% | 91.4% | 91.4% | 93.1% | 91.9% | 93.9% |
| 25 ～ 29 | 66.6% | 65.5% | 66.4% | 67.7% | 71.2% | 69.5% |
| 30 ～ 34 | 32.7% | 35.6% | 39.2% | 42.0% | 44.7% | 50.4% |
| 35 ～ 39 | 13.9% | 19.8% | 21.4% | 26.2% | 31.6% | 34.3% |
| 40 ～ 44 | 8.0% | 10.4% | 15.1% | 17.9% | 22.5% | 26.5% |
| 45 ～ 49 | 6.1% | 7.8% | 9.3% | 14.1% | 17.4% | 20.5% |
| 50 ～ 54 | 4.5% | 4.7% | 7.2% | 8.2% | 14.0% | 16.3% |



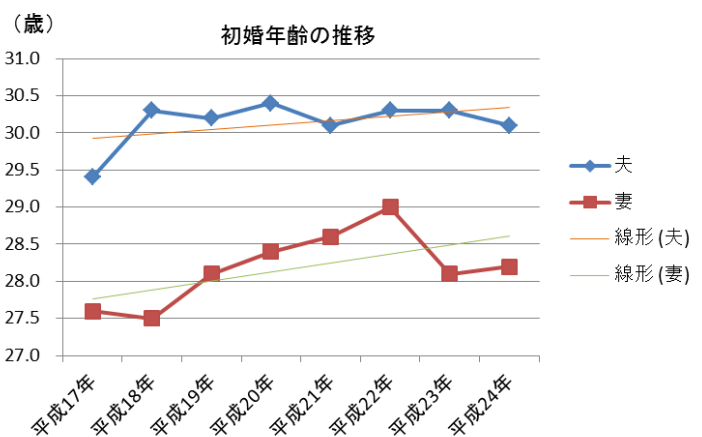
| 年齢 | 昭和60年 | 平成2年 | 平成7年 | 平成12年 | 平成17年 | 平成22年 |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 15 ～ 19 | 99.6% | 98.5% | 99.5% | 99.5% | 99.2% | 99.8% |
| 20 ～ 24 | 85.6% | 86.5% | 87.6% | 88.7% | 87.9% | 89.7% |
| 25 ～ 29 | 33.5% | 42.4% | 50.7% | 56.9% | 60.7% | 62.1% |
| 30 ～ 34 | 8.4% | 10.3% | 16.5% | 24.4% | 29.8% | 36.1% |
| 35 ～ 39 | 3.7% | 5.0% | 6.2% | 10.3% | 15.1% | 20.6% |
| 40 ～ 44 | 2.8% | 2.8% | 4.2% | 4.7% | 8.6% | 13.0% |
| 45 ～ 49 | 2.9% | 2.2% | 2.4% | 3.6% | 4.2% | 8.2% |
| 50 ～ 54 | 2.9% | 2.9% | 2.5% | 2.2% | 3.6% | 4.0% |

※昭和 60 年から平成 22 年までの国勢調査

初婚年齢

| | 夫 | 妻 |
|-------|------|------|
| 平成17年 | 29.4 | 27.6 |
| 平成18年 | 30.3 | 27.5 |
| 平成19年 | 30.2 | 28.1 |
| 平成20年 | 30.4 | 28.4 |
| 平成21年 | 30.1 | 28.6 |
| 平成22年 | 30.3 | 29.0 |
| 平成23年 | 30.3 | 28.1 |
| 平成24年 | 30.1 | 28.2 |

※茨城保健統計年報



(8) 結婚・出産・子育てに関する市民意識（アンケート結果）

市民の結婚・出産・子育てに対する意識を調査するため、アンケートを実施しました。結果（概要）は以下のとおりです。

■調査対象者の抽出

18 歳以上 50 歳未満の男女 3,000 人（無作為抽出）

■調査方法

郵送によるアンケート用紙の送付および回収

■回収状況

回収票数：648 票（回収率：21.6%）

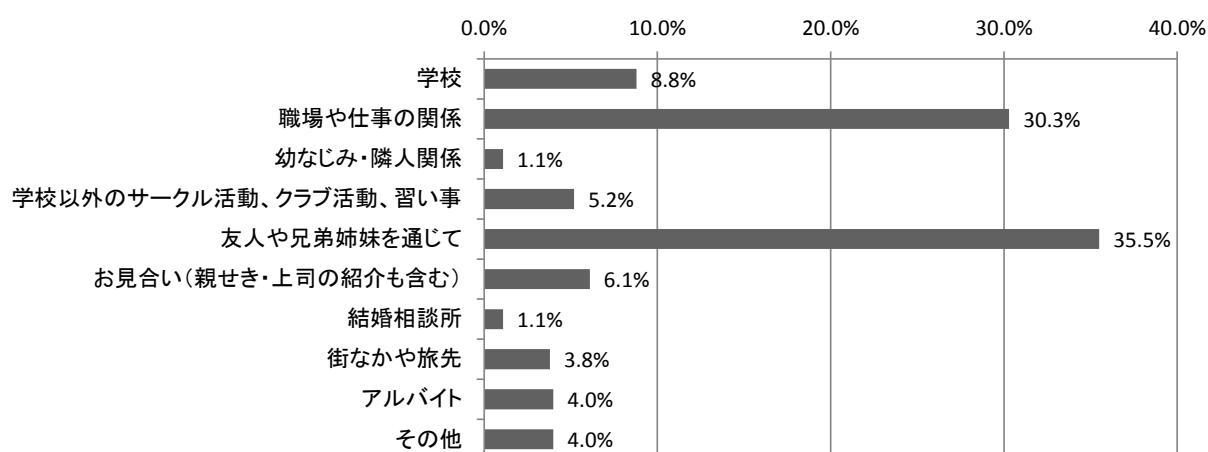
■調査期間

平成 27 年 5 月から平成 27 年 6 月まで

①既婚者意識

1) 知り合ったきっかけ

結婚相手と知り合ったきっかけは、「友人や兄弟姉妹を通じて」が 158 人 (35.5%) で最も多く、「職場や仕事の関係」が 135 人 (30.3%) と続いています。両方を加えると、4 人中 3 人は、いずれかの出会いとなっています。「学校」が 39 人 (8.8%)、「お見合い」が 27 人 (6.1%)、「学校以外のサークル活動、クラブ活動、習い事」が 23 人 (5.2%) などとなっています。いずれにしても、さまざまな出会いの機会から結婚に至っていることがわかります。



2) 理想的な子どもの数

理想的な子どもの数については「3人」が210人(48.7%)で最も多く、「2人」が192人(44.5%)が続いています。合わせると、402人(93.3%)となり、多くの世帯でおおむね2～3人の子どもが理想と考えられていることがわかります。

| | 那珂市 A | 那珂市(構成比) B | 全国平均(※) C | 全国平均比 C-B |
|----------|----------|---------------|--------------|--------------|
| 子どもはいらない | 1人 | 0.2% | 3.0% | △2.8% |
| 1人 | 11人 | 2.6% | 3.8% | △1.3% |
| 2人 | 192人 | 44.5% | 48.2% | △3.5% |
| 3人 | 210人 | 48.7% | 39.6% | 9.0% |
| 4人 | 12人 | 2.8% | 4.6% | △1.8% |
| 5人以上 | 5人 | 1.2% | 0.8% | 0.3% |
| 平均理想子ども数 | 2.55人 | 2.55人 | 2.42人 | 0.13人 |
| (有効回答数) | 431人 | | — | |

3) 実際に持つつもりの子どもの数

実際に持つつもりの子どもの数については、「2人」が240人(57.4%)と最も多くなっています。「3人」が90人(21.5%)、「1人」が66人(15.8%)が続いています。理想の子どもの数と実際に持つつもりの子どもの数には差が生じています。

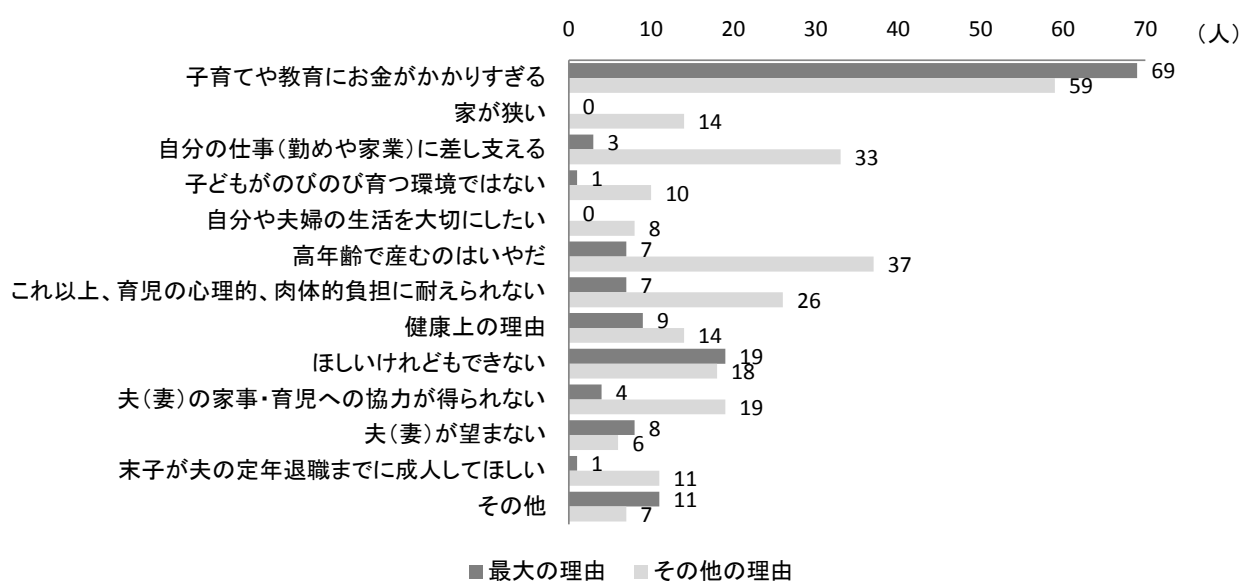
| | 那珂市 A | 那珂市(構成比) B | 全国平均(※) C | 全国平均比 C-B |
|----------|----------|---------------|--------------|--------------|
| 子どもは持たない | 11人 | 2.6% | 4.2% | △1.6% |
| 1人 | 66人 | 15.8% | 13.1% | 2.7% |
| 2人 | 240人 | 57.4% | 57.1% | 0.3% |
| 3人 | 90人 | 21.5% | 22.8% | △1.3% |
| 4人 | 9人 | 2.2% | 2.2% | 0.0% |
| 5人以上 | 2人 | 0.5% | 0.5% | 0.0% |
| 平均予定子ども数 | 2.06人 | | 2.07人 | |
| 平均理想子ども数 | 2.55人 | | 2.42人 | |
| ギャップ | △0.49人 | | △0.35人 | |
| (有効回答数) | 418人 | | — | |

※全国平均は、「第14回出生動向基本調査 結婚と出産に関する全国調査」(国立社会保障・人口問題研究所)の値です。以下、全国平均比と表示されているものは同じ調査との比較を指します。

4) 持つつもりの子どもの数が少ない理由

実際に持つつもりの子どもの数が、理想とする子どもの数より少ない理由で、最も重要な理由は、「子育てや教育にお金がかかりすぎる」が 69 人で最も多く、「ほしいけれどもできない」が 19 人と続き、「健康上の理由」「高年齢で産むのはいやだ」「これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられない」などが少数で続いています。

その他の理由においても、「子育てや教育にお金がかかりすぎる」が 59 人で最も多くなっています。「高年齢で産むのはいやだ」が 37 人、「自分の仕事（勤めや家業）に差し支える」が 33 人となっています。



| | 那珂市(構成比) B | 全国平均(※) C | 全国平均比 C-B |
|--------------------------|---------------|--------------|--------------|
| 子育てや教育にお金がかかりすぎる | 49.6% | 24.6% | 25.0% |
| 自分の仕事(勤めや家業)に差し支える | 2.2% | 2.6% | △0.4% |
| 子どもがのびのび育つ環境ではない | 0.7% | 0.7% | 0.0% |
| 自分や夫婦の生活を大切にしたい | 0.0% | 0.6% | △0.6% |
| 高年齢で産むのはいやだ | 5.0% | 9.9% | △4.9% |
| これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられない | 5.0% | 2.9% | 2.1% |
| 健康上の理由 | 6.5% | 6.6% | △0.1% |
| ほしいけれどもできない | 13.7% | 10.5% | 3.2% |
| 夫(妻)の家事・育児への協力が得られない | 2.9% | 1.7% | 1.2% |
| 夫(妻)が望まない | 5.8% | 2.1% | 3.7% |
| 末子が夫の定年退職までに成人してほしい | 0.7% | 1.0% | △0.3% |
| (有効回答数) | 139人 | — | |

②独身者意識

1) 結婚に対する意識

独身者の結婚に対する考え方については、「いずれ結婚するつもり」が 186 人 (87.7%) となっており、「一生結婚するつもりはない」が 26 人 (12.3%) となっています。

| | 那珂市 A | 那珂市(構成比) B | 全国平均(※) C | 全国平均比 C-B |
|--------------|----------|---------------|--------------|--------------|
| いずれ結婚するつもり | 186人 | 87.7% | 89.4% | △1.7% |
| 一生結婚するつもりはない | 26人 | 12.3% | 6.8% | 5.5% |
| (有効回答数) | 212人 | | — | |

■年齢別（有効回答数：208 人）

| 上段:人数 下段:% | | 年齢 | | | | |
|---------------|--------------|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | | 合計 | 18～19歳 | 20～29歳 | 30～39歳 | 40～49歳 |
| 結婚意向 | 全体 | 208 100.0 | 27 100.0 | 95 100.0 | 56 100.0 | 30 100.0 |
| | いずれ結婚するつもり | 182 87.5 | 24 88.9 | 92 96.8 | 44 78.6 | 22 73.3 |
| | 一生結婚するつもりはない | 26 12.5 | 3 11.1 | 3 3.2 | 12 21.4 | 8 26.7 |

■男女別（有効回答数：207 人）

| 上段:人数 下段:% | | 性別 | | |
|---------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| | | 合計 | 男性 | 女性 |
| 結婚意向 | 全体 | 207 100.0 | 106 100.0 | 101 100.0 |
| | いずれ結婚するつもり | 181 87.4 | 93 87.7 | 88 87.1 |
| | 一生結婚するつもりはない | 26 12.6 | 13 12.3 | 13 12.9 |

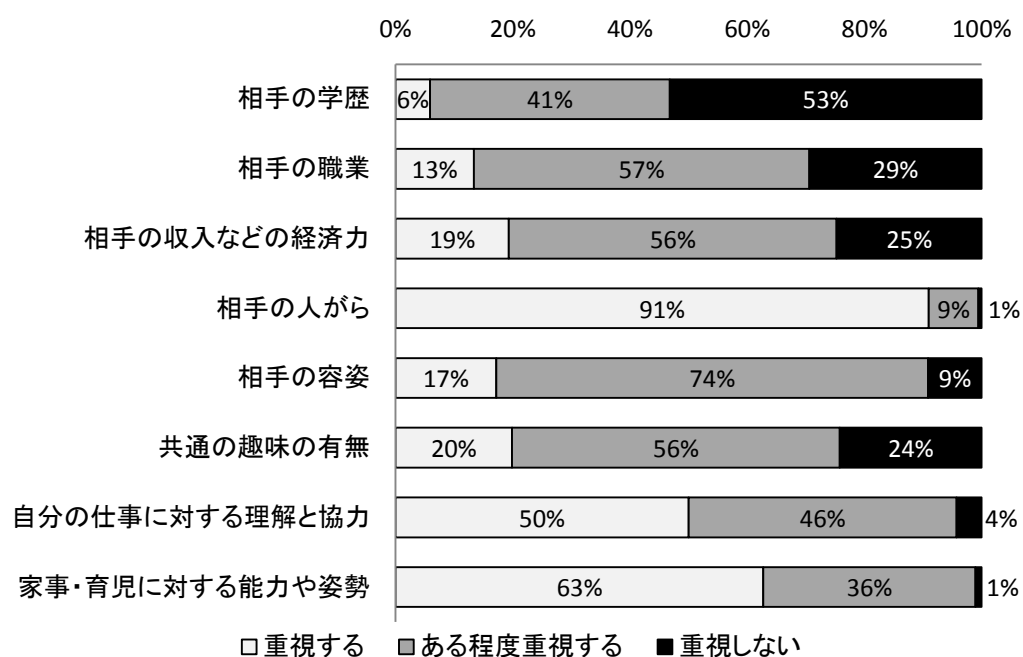
2) 結婚意向

「いずれ結婚するつもり」と回答した方の結婚に対する考えとしては、「ある程度の年齢までには結婚するつもり」が 103 人 (55.4%) となっており、「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」が 83 人 (44.6%) となっています。

| | 那珂市 A | 那珂市(構成比) B | 全国平均(※) C | 全国平均比 C-B |
|----------------------------|----------|---------------|--------------|--------------|
| ある程度の年齢までには結婚するつもり | 103人 | 55.4% | 58.4% | △3.0% |
| 理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない | 83人 | 44.6% | 40.5% | 4.1% |
| (有効回答数) | 186人 | | — | |

3) 結婚にあたり重視すること

結婚相手を決めるときに重視する項目についてみると、「相手の人から」では、171人（91.0%）が「重視する」とし、「ある程度重視する」を合わせると、187人（99.5%）に達します。その他、「重視する」が多い項目としては、「家事・育児に対する能力や姿勢」の118人（62.8%）や「自分の仕事に対する理解と協力」の94人（50.0%）が高くなっています。最も重視されていない項目としては「相手の学歴」が99人（53.2%）となっています。



| | 那珂市 A | 那珂市(構成比) B | 全国平均(※) C | 全国平均比 C-B |
|----------------|----------|---------------|--------------|--------------|
| 相手の学歴 | 11人 | 5.9% | 8.3% | △2.4% |
| 相手の職業 | 25人 | 13.4% | 31.9% | △18.5% |
| 相手の収入などの経済力 | 36人 | 19.4% | 42.0% | △22.6% |
| 相手の人から | 171人 | 91.0% | 88.4% | 2.6% |
| 相手の容姿 | 32人 | 17.2% | 15.6% | 1.6% |
| 共通の趣味の有無 | 37人 | 19.9% | 24.6% | △4.7% |
| 自分の仕事に対する理解と協力 | 94人 | 50.0% | 48.9% | 1.1% |
| 家事・育児に対する能力や姿勢 | 118人 | 62.8% | 62.4% | 0.4% |
| (有効回答数) | 188人 | | — | |

4) 希望する子どもの数

独身者が欲しいと考えている子どもの数は、「2人」が120人（67.0%）で最も多く、「3人以上」が26人（14.5%）、「1人」が19人（10.6%）と続いており、結婚している世帯の平均理想子ども数 2.55 人に比べると、平均欲しい子ども数は少数にとどまることがわかります。

| | 那珂市 A | 那珂市(構成比) B | 全国平均(※) C | 全国平均比 C-B |
|---------|----------|---------------|--------------|--------------|
| 0人 | 14人 | 7.8% | 5.3% | 2.5% |
| 1人 | 19人 | 10.6% | 6.7% | 3.9% |
| 2人 | 120人 | 67.0% | 60.8% | 6.2% |
| 3人以上 | 26人 | 14.5% | 25.6% | △11.1% |
| (有効回答数) | 179人 | | — | |

■年齢別（有効回答数：177人）

| 上段:人数 下段:% | | 年齢 | | | | |
|---------------|-----------|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | | 合計 | 18～19歳 | 20～29歳 | 30～39歳 | 40～49歳 |
| 欲しい子どもの数 | 全体 | 177 100.0 | 24 100.0 | 90 100.0 | 43 100.0 | 20 100.0 |
| | 子どもはいらない | 13 7.3 | 1 4.2 | 1 1.1 | 6 14.0 | 5 25.0 |
| | 1人 | 19 10.7 | 1 4.2 | 8 8.9 | 8 18.6 | 2 10.0 |
| | 2人 | 119 67.2 | 19 79.2 | 65 72.2 | 23 53.5 | 12 60.0 |
| | 3人 | 26 14.7 | 3 12.5 | 16 17.8 | 6 14.0 | 1 5.0 |
| | 平均欲しい子ども数 | 1.89 | 2.00 | 2.07 | 1.67 | 1.45 |

■男女別（有効回答数：176人）

| 上段:人数 下段:% | | 性別 | | |
|---------------|-----------|--------------|-------------|-------------|
| | | 合計 | 男性 | 女性 |
| 欲しい子どもの数 | 全体 | 176 100.0 | 91 100.0 | 85 100.0 |
| | 子どもはいらない | 13 7.4 | 2 2.2 | 11 12.9 |
| | 1人 | 19 10.8 | 13 14.3 | 6 7.1 |
| | 2人 | 118 67.0 | 68 74.7 | 50 58.8 |
| | 3人 | 26 14.8 | 8 8.8 | 18 21.2 |
| | 平均欲しい子ども数 | 1.89 | 1.90 | 1.88 |

(9) 高校生の将来意識（アンケート結果）

市内在住の高校生の地元への進学・就職、結婚・出産・子育てに対する意識を調査するため、10 市町村合同でのアンケートを実施しました。結果（概要）は以下のとおりです。

■調査対象者

10 市町村（那珂市、水戸市、日立市、鹿嶋市、神栖市、行方市、鉾田市、東海村、阿見町、境町）の高校に通学する生徒 5,895 人（うち、那珂高校 155 人、水戸農業高校 243 人）

■調査方法

各学校によるアンケート用紙の配布・回収

■調査期間

平成 27 年 6 月から平成 27 年 7 月まで

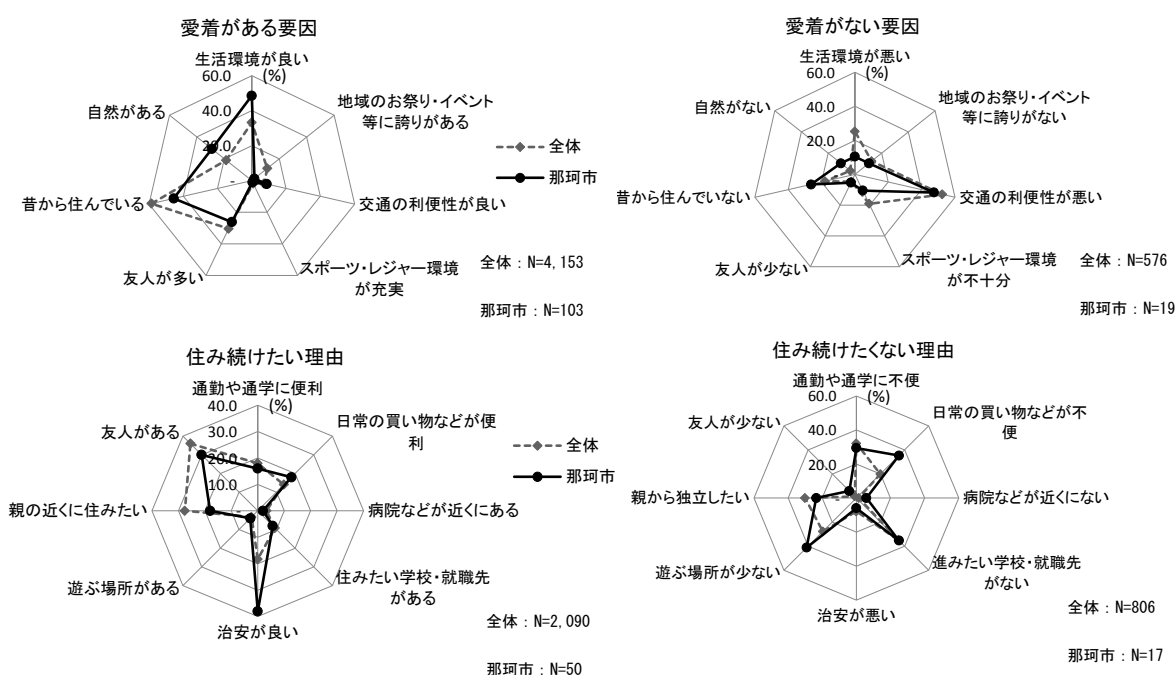
①愛着度・居留意向

那珂市居住の生徒の地元に対する愛着度では、「愛着がある」・「どちらかといえば愛着がある」と回答した生徒は 66.2%（全体 72.2%、以下（）内は全体を示す）と全体をやや下回る結果となっています。また、居留意向では、「ぜひ住み続けたい・戻りたい」・「可能であれば住み続けたい・戻りたい」と回答した生徒は 33.8%（36.3%）と全体をやや下回ります。この結果から、愛着と居留意向にはギャップがあることがわかります。

愛着がある要因としては、「生活環境が良い」が 48.5%（33.2%）で最も多く、逆に愛着がない要因としては、「交通の利便性が悪い」が 47.4%（52.4%）と最も多い結果となりました。住み続けたい理由では、「治安が良い」が 38.0%（18.3%）で最も多く、回答者数は少ないものの住み続けたくない理由では「遊ぶ場所が少ない」が 41.2%（27.8%）と多くなっています。

| 上段:人数 | 居住市町村への愛着 | | | | | |
|-------|----------------|---------------|---------------|---------------|---------------|------------|
| 下段:% | 合計 | 愛着がある | どちらかといえば愛着がある | どちらともいえない | どちらかといえば愛着はない | 愛着はない |
| 全体 | 5,890 100.0 | 1,936 32.9 | 2,316 39.3 | 1,037 17.6 | 272 4.6 | 329 5.6 |
| 那珂市 | 157 100.0 | 52 33.1 | 52 33.1 | 34 21.7 | 10 6.4 | 9 5.7 |

| 上段:人数 | 居留意向 | | | | | |
|-------|----------------|---------------|-------------------|-------------------|-----------------------|---------------|
| 下段:% | 合計 | ぜひ住み続けたい・戻りたい | 可能であれば住み続けたい・戻りたい | どちらともいえない・こだわりはない | どちらかといえば住みたくない・戻りたくない | 住みたくない・戻りたくない |
| 全体 | 5,867 100.0 | 726 12.4 | 1,403 23.9 | 2,916 49.7 | 519 8.8 | 303 5.2 |
| 那珂市 | 157 100.0 | 18 11.5 | 35 22.3 | 86 54.8 | 15 9.6 | 3 1.9 |



②希望進路・就業に対する意識

卒業後の希望進路では、「就職」が 35.0% (25.9%) で最も多く、「県外大学への進学」が 24.2% (30.4%) となり、就職や県内での進学の割合が全体より高い傾向がみられます。

将来の就業については、「やりたい仕事のできる企業に就職したい」との希望が 48.1% (54.8%) で最も多く、「今住んでいる市町村」・「居住市町村に近い場所」との希望は合計で 44.6% (42.8%) となっています。一方、「どこでもかまわない」が 22.7% (20.0%) となっています。

| 上段:人数 | 希望進路 | | | | | | | | |
|-------|----------------|---------------|---------------|------------------|------------------|---------------|------------|------------|-----------|
| 下段:% | 合計 | 県内大学・短大等への進学 | 県外大学・短大等への進学 | 県内専門学校・専修学校等への進学 | 県外専門学校・専修学校等への進学 | 就職 | 自営または家業を継ぐ | わからない | その他 |
| 全体 | 5,865 100.0 | 1,338 22.8 | 1,783 30.4 | 575 9.8 | 440 7.5 | 1,521 25.9 | 17 0.3 | 156 2.7 | 35 0.6 |
| 那珂市 | 157 100.0 | 36 22.9 | 38 24.2 | 19 12.1 | 7 4.5 | 55 35.0 | 1 0.6 | 1 0.6 | - |

| 上段:人数 | 就職や働き方に対する希望 | | | | | | | |
|-------|----------------|---------------|------------|--------------------|------------|-----------|-------------|------------|
| 下段:% | 合計 | 大手企業に就職したい | 中小企業に就職したい | やりたい仕事のできる企業に就職したい | 自分で起業したい | 家業を継ぎたい | わからない | その他 |
| 全体 | 5,844 100.0 | 1,049 18.0 | 349 6.0 | 3,201 54.8 | 167 2.9 | 69 1.2 | 748 12.8 | 261 4.5 |
| 那珂市 | 154 100.0 | 28 18.2 | 18 11.7 | 74 48.1 | 2 1.3 | 2 1.3 | 20 13.0 | 10 6.5 |

| 上段:人数 | 希望する就業地 | | | | | | |
|-------|----------------|------------|---------------|---------------|------------|---------------|------------|
| 下段:% | 合計 | 今住んでいる市町村 | 居住市町村に近い場所 | 東京圏 | 海外 | どこでもかまわない | わからない |
| 全体 | 5,757 100.0 | 534 9.3 | 1,931 33.5 | 1,639 28.5 | 140 2.4 | 1,149 20.0 | 364 6.3 |
| 那珂市 | 150 100.0 | 11 7.3 | 56 37.3 | 33 22.0 | 5 3.3 | 34 22.7 | 11 7.3 |

③結婚・子どもに対する意識

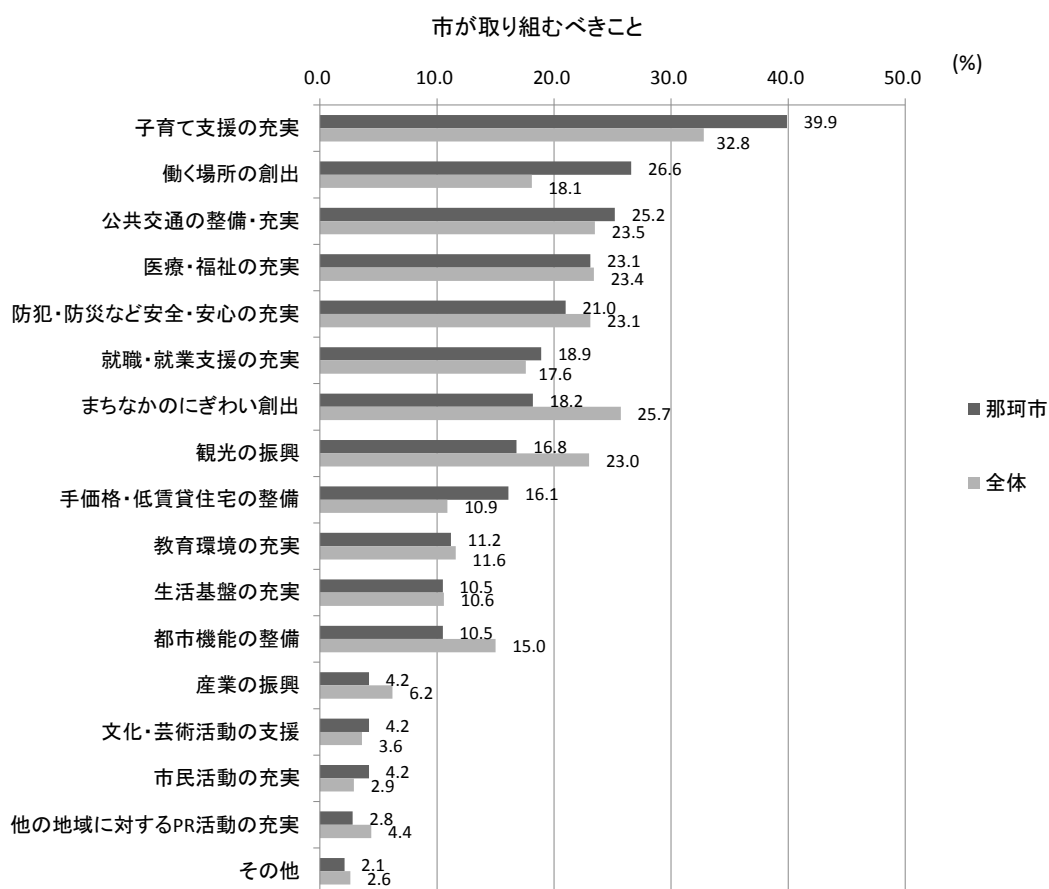
結婚に対しては、「いずれ結婚したい」が82.1%（76.6%）で全体よりも高めとなっています。また、欲しい子どもの数は2.18人（2.16人）となっています。

| 上段:人数 下段:% | 結婚願望 | | | |
|---------------|----------------|---------------|----------------|---------------|
| | 合計 | いずれ結婚 したい | 結婚するつも りはない | わからない |
| 全体 | 5,862 100.0 | 4,489 76.6 | 321 5.5 | 1,052 17.9 |
| 那珂市 | 156 100.0 | 128 82.1 | 9 5.8 | 19 12.2 |

| 上段:人数 下段:% | 子どもの人数 | | | | | | |
|---------------|----------------|------------|---------------|---------------|------------|--------------|---------------|
| | 合計 | 1人 | 2人 | 3人 | 4人以上 | 子どもはいら ない | 欲しい子ども の人数 |
| 全体 | 5,798 100.0 | 432 7.5 | 3,708 64.0 | 1,050 18.1 | 112 1.9 | 496 8.6 | 2.16 |
| 那珂市 | 152 100.0 | 10 6.6 | 99 65.1 | 28 18.4 | 4 2.6 | 11 7.2 | 2.18 |

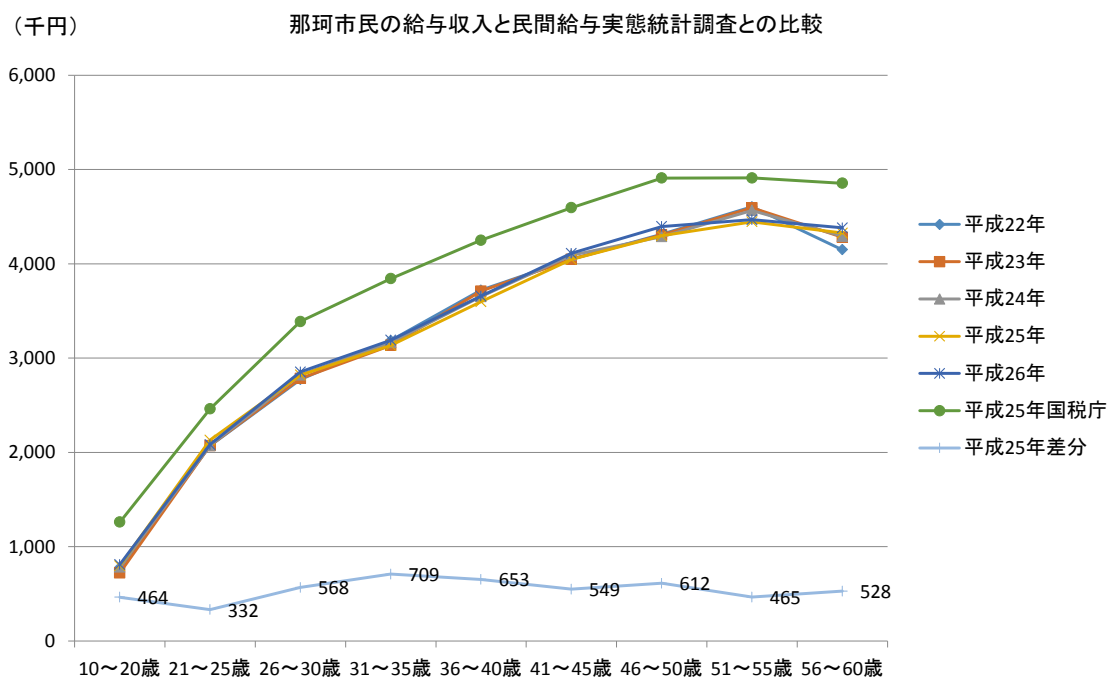
④人口減少社会に市が取り組むべきこと

人口減少社会で市が取り組むべきことでは、「子育て支援の充実」が39.9%（32.8%）で最も多く、「働く場所の創出」が26.6%（18.1%）、「公共交通の整備・充実」が25.2%（23.5%）と続いています。



(10) 給与収入

那珂市民の給与収入の状況をみると、平成22年以降平成26年にかけて概ね横ばいで推移していることがわかります。全世代にわたって国税庁の調査よりも給与収入は低くなっていますが、31～35歳の層および36～40歳の層では他の世代よりも国税庁との差が大きくなっています。41歳以上に比べ絶対額が少ないなかで、差が大きいことから30歳代の給与が少ない傾向にあります。



那珂市民の給与収入の状況と民間給与実態統計調査 (国税庁) (単位：千円)

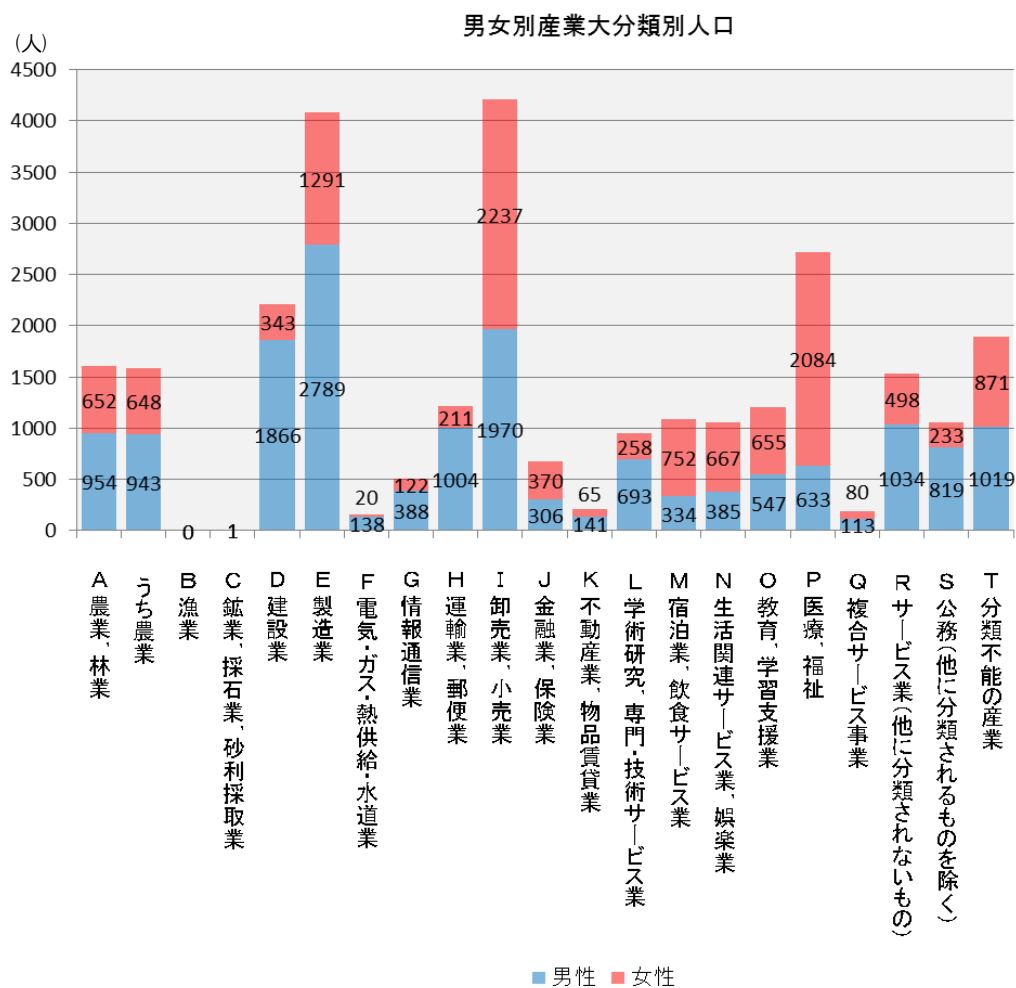
| | 平成22年 | 平成23年 | 平成24年 | 平成25年 | 平成26年 | 平成25年国税庁 | 平成25年差分 | 国税区分 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|----------|---------|-------|
| 10～20歳 | 776 | 722 | 784 | 797 | 812 | 1,261 | 464 | 19歳以下 |
| 21～25歳 | 2,071 | 2,072 | 2,072 | 2,129 | 2,082 | 2,461 | 332 | 20～24 |
| 26～30歳 | 2,773 | 2,783 | 2,821 | 2,820 | 2,853 | 3,388 | 568 | 25～29 |
| 31～35歳 | 3,186 | 3,134 | 3,165 | 3,133 | 3,190 | 3,842 | 709 | 30～34 |
| 36～40歳 | 3,720 | 3,710 | 3,652 | 3,597 | 3,658 | 4,250 | 653 | 35～39 |
| 41～45歳 | 4,048 | 4,048 | 4,091 | 4,045 | 4,111 | 4,594 | 549 | 40～44 |
| 46～50歳 | 4,313 | 4,304 | 4,287 | 4,297 | 4,396 | 4,909 | 612 | 45～49 |
| 51～55歳 | 4,604 | 4,593 | 4,566 | 4,445 | 4,467 | 4,910 | 465 | 50～54 |
| 56～60歳 | 4,148 | 4,281 | 4,292 | 4,326 | 4,381 | 4,854 | 528 | 55～59 |

※那珂市税務課および民間給与実態統計調査の数値です。

(1 1) 産業別人口

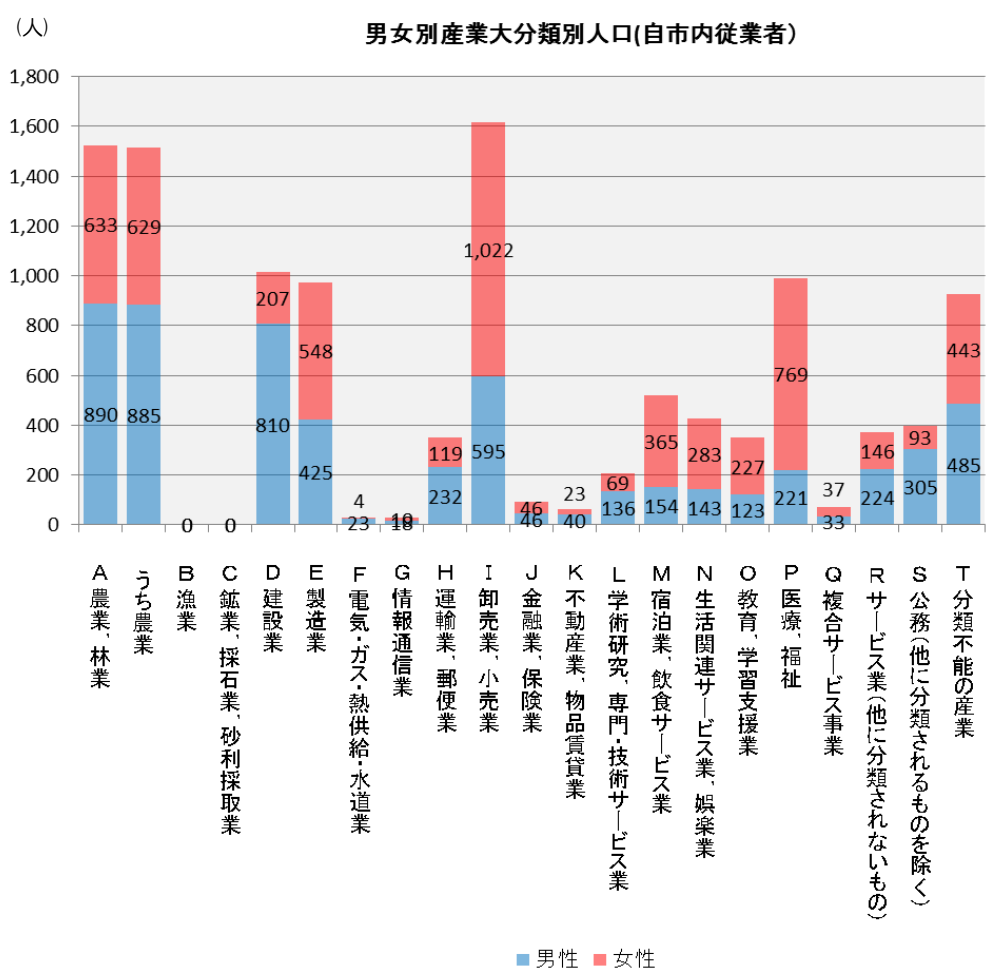
産業別の就業状況を見ると、卸売業・小売業が 4,207 人と最も多く、次いで製造業、医療・福祉が続いています。

女性の就労先についても卸売業・小売業が 2,237 人と最も多く、次いで医療・福祉 2,084 人、製造業 1,291 人となっています。



※平成 22 年の国勢調査産業等基本集計の数値です。

次に、市内の産業別就業状況をみると、卸売業・小売業が最も多く、農業・林業、建設業、医療・福祉、製造業が続きます。女性の就業では、卸売業・小売業、医療・福祉、農業・林業、製造業が多くなっています。

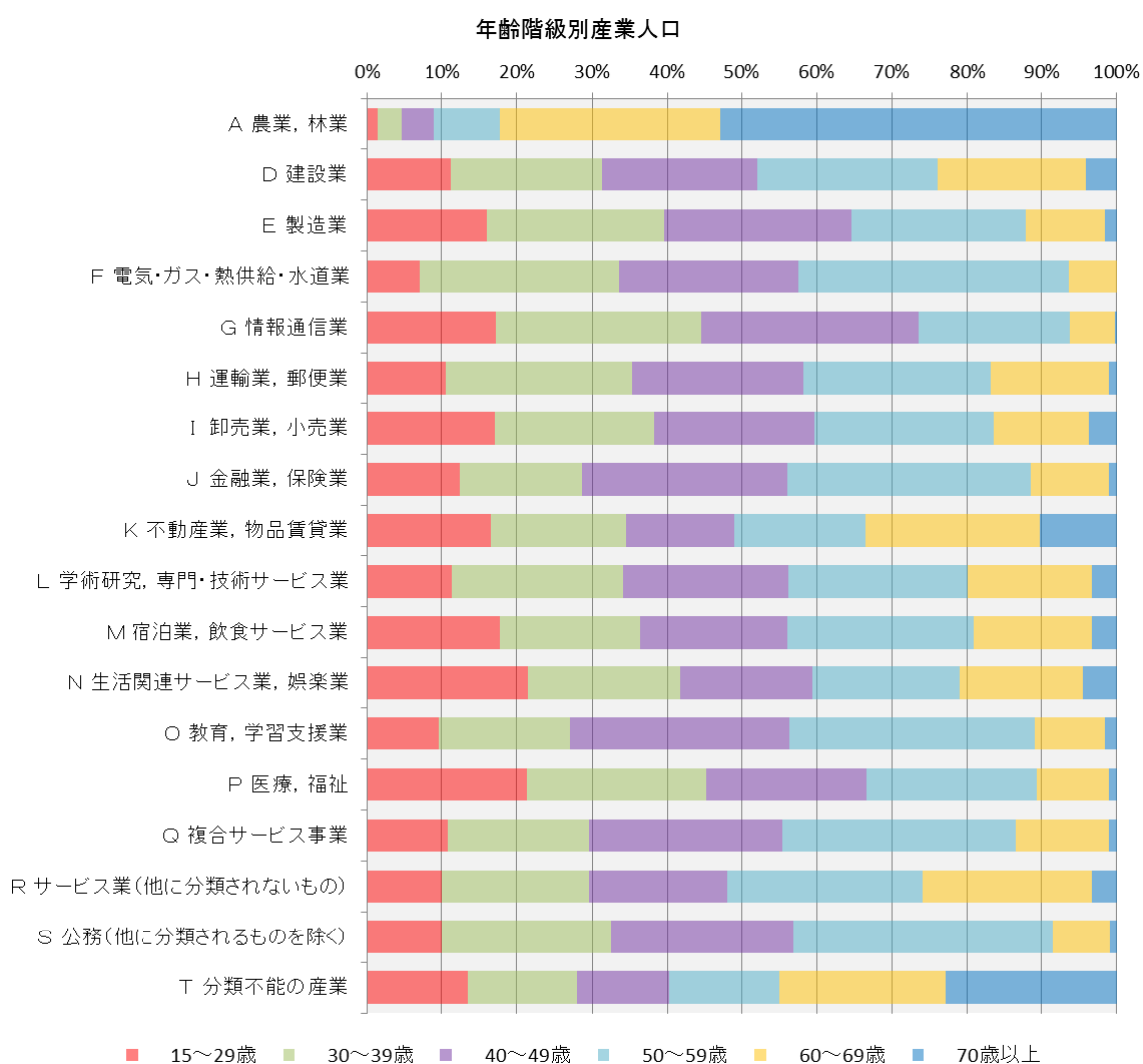


※平成22年の国勢調査産業等基本集計の数値です。

産業別の就業状況を年齢階級別にみると、農業・林業では 60 歳以上が 8 割以上を占めています。

最も従業者が多い卸売業・小売業は、年齢構成のバランスがとれており、幅広い年齢層の雇用を支えています。

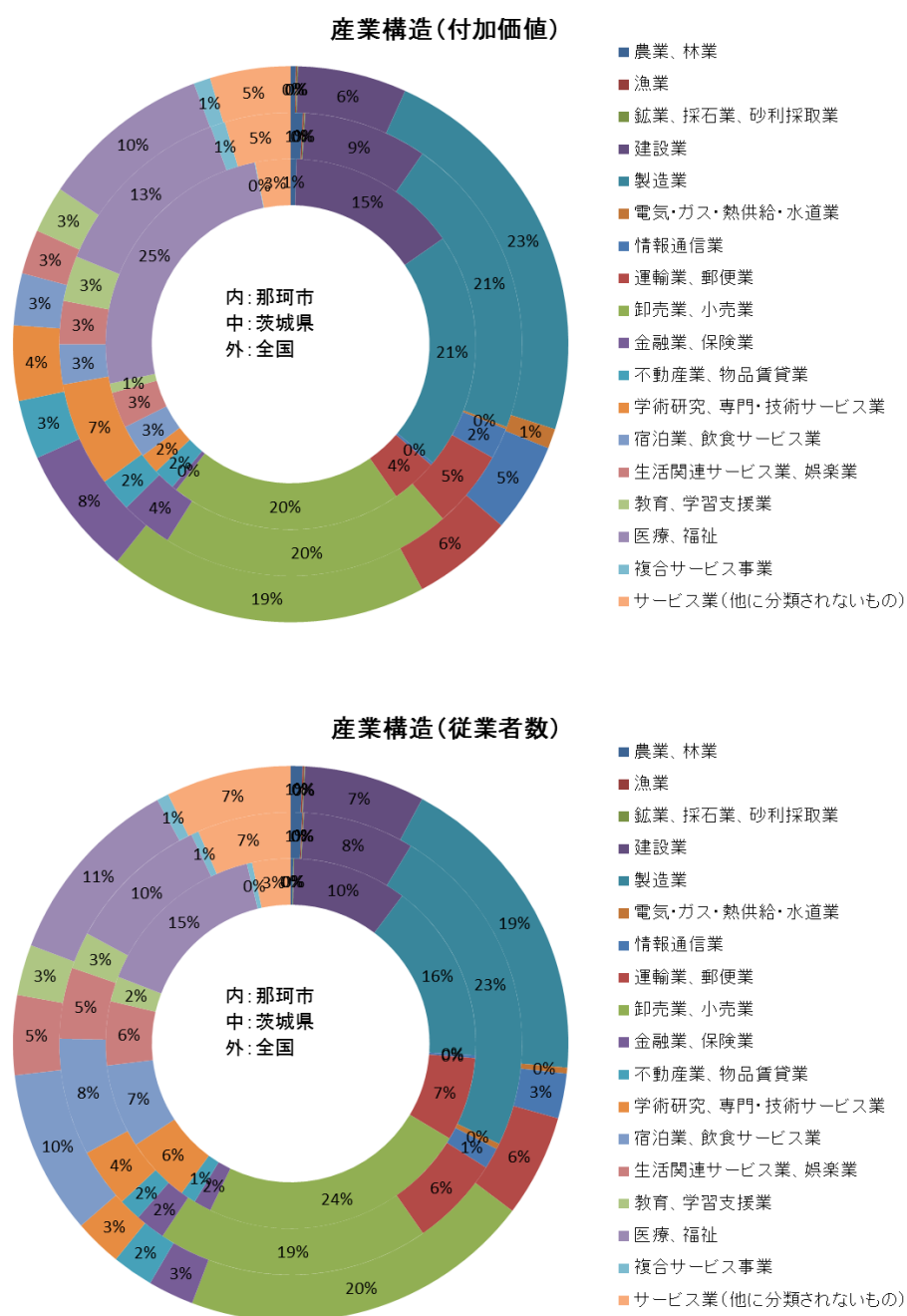
情報通信業と医療・福祉では、15～39 歳の若い世代が就業者の半数弱を占めています。



※平成 22 年の国勢調査産業等基本集計の数値です。

(1 2) 産業構造

那珂市の産業構造をみると、総生産額（付加価値額）のウェートが高いのは、医療・福祉 25%、製造業 21%、卸売業・小売業 20%、建設業 15%の順となっています。また、従業者数では、卸売業・小売業 24%、製造業 16%、医療・福祉 15%の順となっています。概ね総生産額の大きい産業の従業者が多い状況にあります。

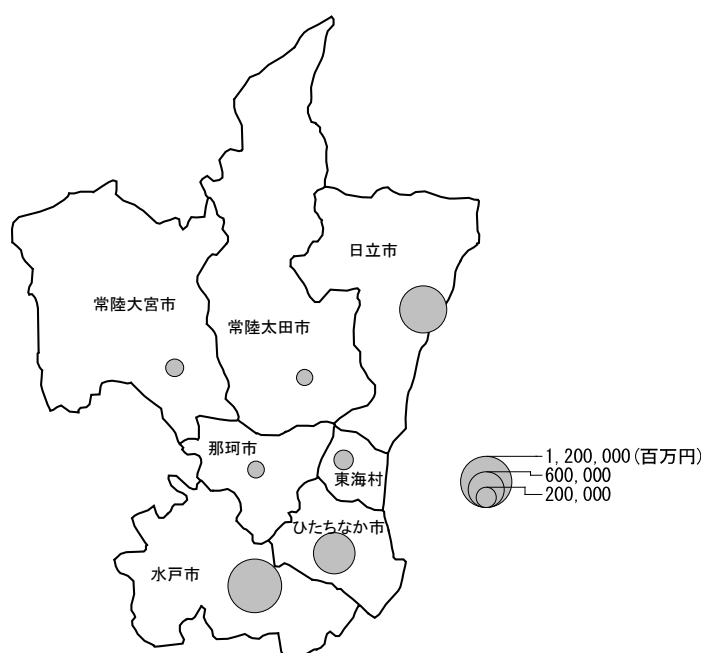


※平成 24 年の経済センサスの集計数値です。

(13) 総生産額

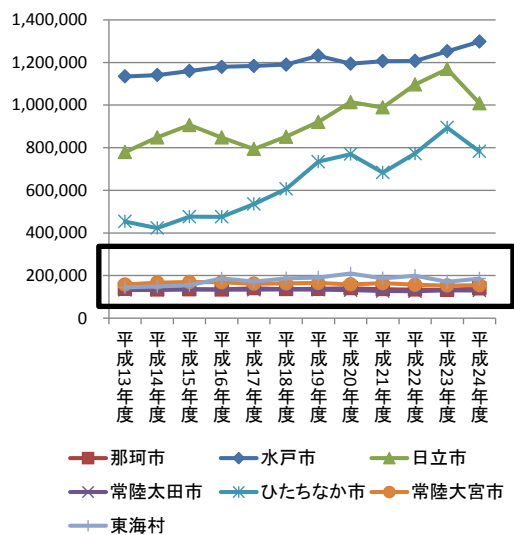
平成 24 年度的那珂市の総生産額は 1,400 億円となっています。平成 13 年度は 1,378 億円で、この間ほぼ横ばいで推移しています。周辺市町村では、水戸市、日立市、ひたちなか市の総生産額の規模が大きく、概ね増加傾向にあります。その他の市町村では、東海村が増加傾向にあります。那珂市の総生産額は常陸太田市とほぼ同水準にあります。

市町村民総生産（平成 24 年度）



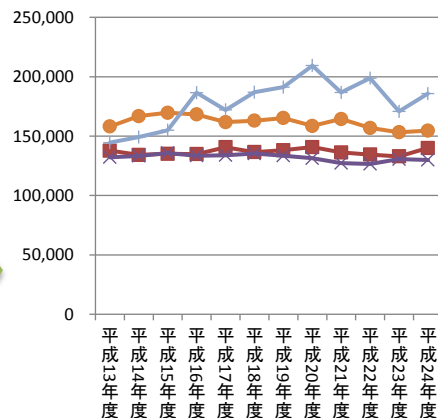
※市町村民経済計算の数値です。

(百万円) 市町村民総生産の推移



拡大

(百万円) 市町村民総生産の推移(拡大図)



※市町村民経済計算の数値です。

(14) 通勤・通学による人口動態

那珂市在住者の通勤・通学先の割合は、那珂市が 38.1%で最も多く、次いで水戸市 23.3%、ひたちなか市 14.2%となっています。

一方、那珂市へ通勤・通学している人の常住地の割合は、那珂市が 52.8%で最も多く、次いでひたちなか市 11.4%、水戸市 11.1%となっています。

那珂市在住者の通勤・通学先ランキング

| | 市町村 | 通勤・通学者数 | 通勤通学率 |
|------|--------|----------|-------|
| 1 位 | 那珂市 | 10,553 人 | 38.1% |
| 2 位 | 水戸市 | 6,449 人 | 23.3% |
| 3 位 | ひたちなか市 | 3,921 人 | 14.2% |
| 4 位 | 日立市 | 1,356 人 | 4.9% |
| 5 位 | 東海村 | 1,271 人 | 4.6% |
| 6 位 | 常陸大宮市 | 1,238 人 | 4.5% |
| 7 位 | 常陸太田市 | 1,089 人 | 3.9% |
| 8 位 | 笠間市 | 224 人 | 0.8% |
| 9 位 | 城里町 | 201 人 | 0.7% |
| 10 位 | 茨城町 | 199 人 | 0.7% |
| 合計 | | 27,694 人 | — |

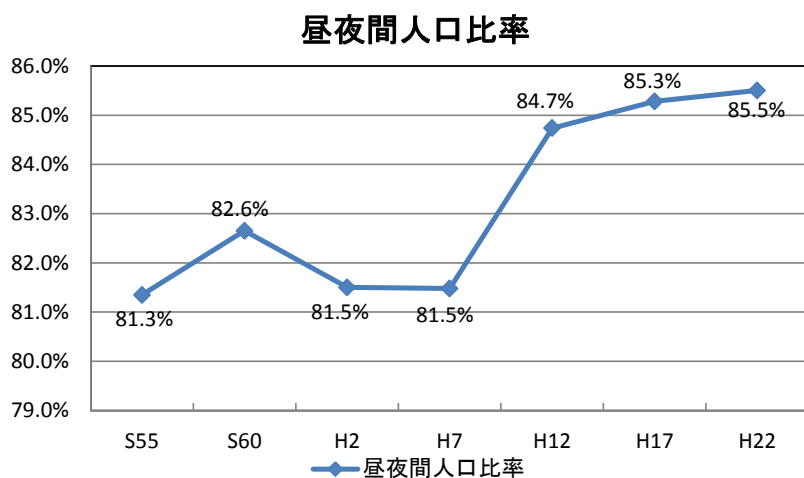
那珂市へ通勤・通学している人の常住地ランキング

| | 市町村 | 通勤・通学者数 | 通勤通学率 |
|------|--------|----------|-------|
| 1 位 | 那珂市 | 10,553 人 | 52.8% |
| 2 位 | ひたちなか市 | 2,286 人 | 11.4% |
| 3 位 | 水戸市 | 2,226 人 | 11.1% |
| 4 位 | 常陸大宮市 | 1,214 人 | 6.1% |
| 5 位 | 常陸太田市 | 1,163 人 | 5.8% |
| 6 位 | 東海村 | 812 人 | 4.1% |
| 7 位 | 日立市 | 491 人 | 2.5% |
| 8 位 | 城里町 | 418 人 | 2.1% |
| 9 位 | 笠間市 | 168 人 | 0.8% |
| 10 位 | 茨城町 | 121 人 | 0.6% |
| 合計 | | 19,984 人 | — |

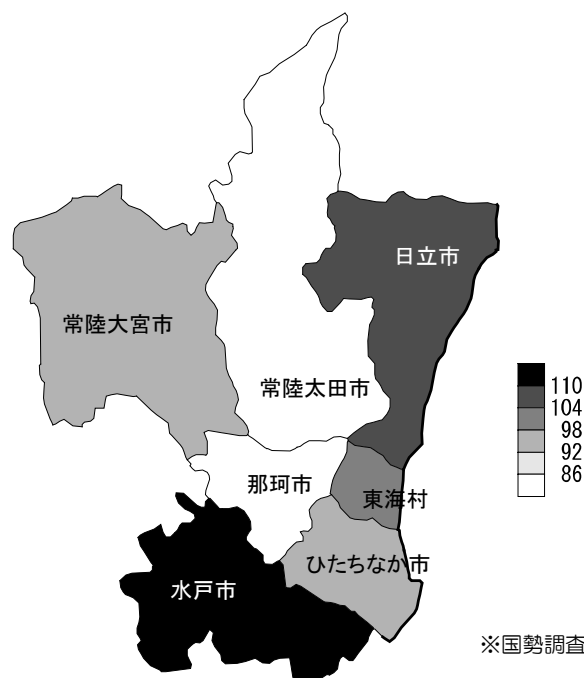
※平成 22 年の国勢調査の数値です。

(15) 昼夜間人口比率

那珂市の昼夜間人口比率(※)をみると、昭和55年は81.3%となっていました。その後平成7年までは、80%台前半で推移していましたが、平成12年以降は上昇傾向にあり、平成22年は85.5%となっています。市内での通勤・通学が高まる傾向にありますが、通勤・通学圏でみたように、水戸市、ひたちなか市など周辺地域への通勤・通学も相当程度みられており、通勤・通学場所としてよりも居住地としての性格が強いことがわかります。



平成22年 那珂市および周辺市村の昼夜間人口比率



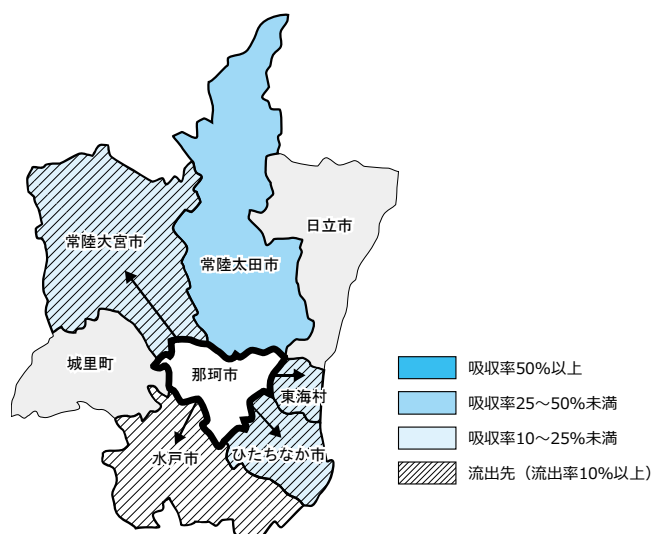
※昼間人口の夜間人口に対する比率。昼間人口は、就業者または通学者が従業・通学している従業地・通学地による人口をいいます。

(16) 商圏・余暇圏

那珂市の商圏をみると、流出先として水戸市（流出率 58.2%）・ひたちなか市（同 55.6%）と、50%超の流出がみられます。以下、常陸大宮市（同 20.1%）、東海村（同 11.7%）となっています。

一方、吸収先では常陸太田市（吸収率 31.0%）、常陸大宮市（同 15.1%）、ひたちなか市（同 13.9%）、東海村（同 11.1%）となっています。

平成 25 年 那珂市の商圏

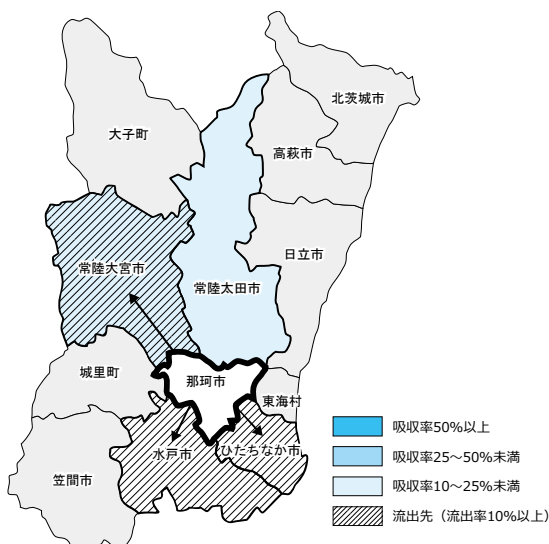


※生活行動圏調査（常陽アーク）の数値です。

那珂市の余暇圏をみると、流出先としてひたちなか市（流出率 48.2%）・水戸市（同 43.2%）と、40%超の流出がみられます。以下、常陸大宮市（同 12.6%）となっています。

一方、吸収先では常陸太田市（吸収率 15.2%）、常陸大宮市（同 11.5%）となっています。

平成 25 年 那珂市の余暇圏



※生活行動圏調査（常陽アーク）の数値です。

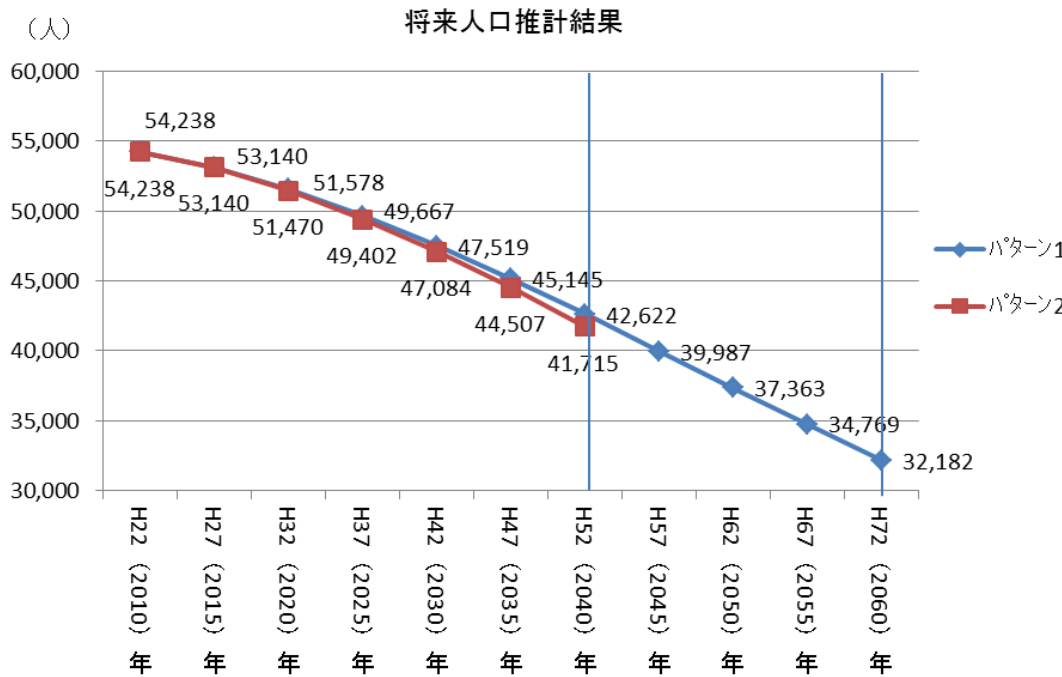
2. 将来人口の推移と分析

(1) 将来人口推計

国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）の「日本の地域別将来人口推計（平成 25（2013）年 3 月推計）」および民間機関である日本創成会議による「地域別将来人口推計」を基に那珂市の将来の人口推計を行うとともに、人口減少段階や将来の人口に及ぼす影響などについて分析します。

① 将来人口シミュレーション

平成 52（2040）年の那珂市の総人口は、社人研の推計（パターン 1）では 42,622 人（2010 年比△21.4%）、日本創成会議推計（パターン 2）では 41,715 人（2010 年比△23.1%）となります。



【各パターンにおける将来人口推計】

(単位：人)

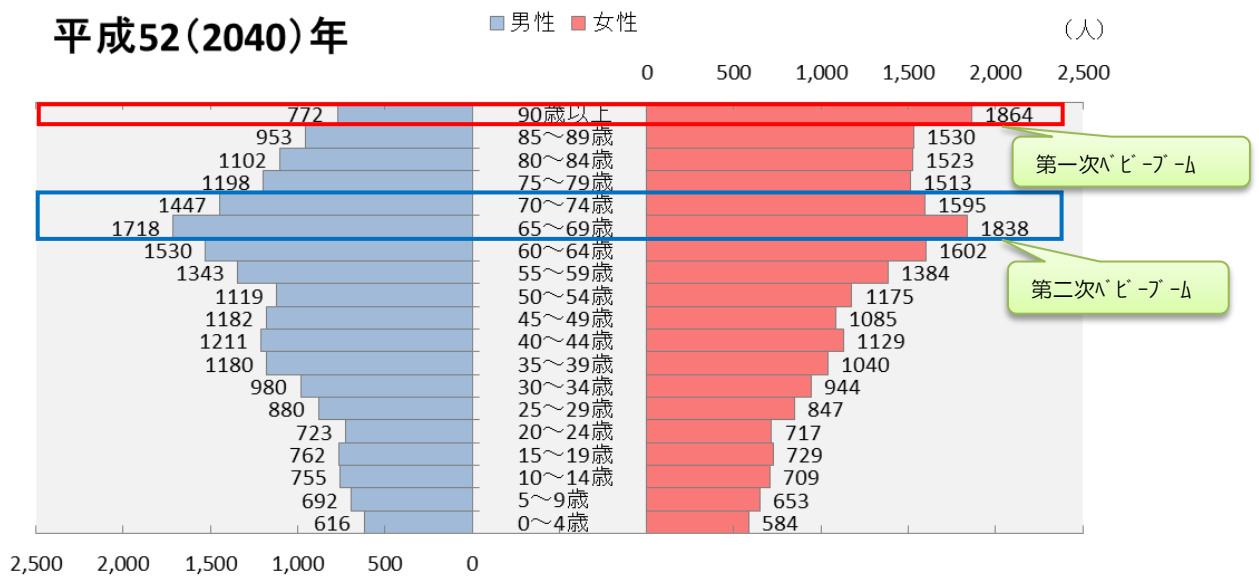
| | H22 (2010)年 | H27 (2015)年 | H32 (2020)年 | H37 (2025)年 | H42 (2030)年 | H47 (2035)年 | H52 (2040)年 | H57 (2045)年 | H62 (2050)年 | H67 (2055)年 | H72 (2060)年 |
|-------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| パターン1 | 54,238 | 53,140 | 51,578 | 49,667 | 47,519 | 45,145 | 42,622 | 39,987 | 37,363 | 34,769 | 32,182 |
| パターン2 | 54,238 | 53,140 | 51,470 | 49,402 | 47,084 | 44,507 | 41,715 | | | | |

【各パターンにおける合計特殊出生率】

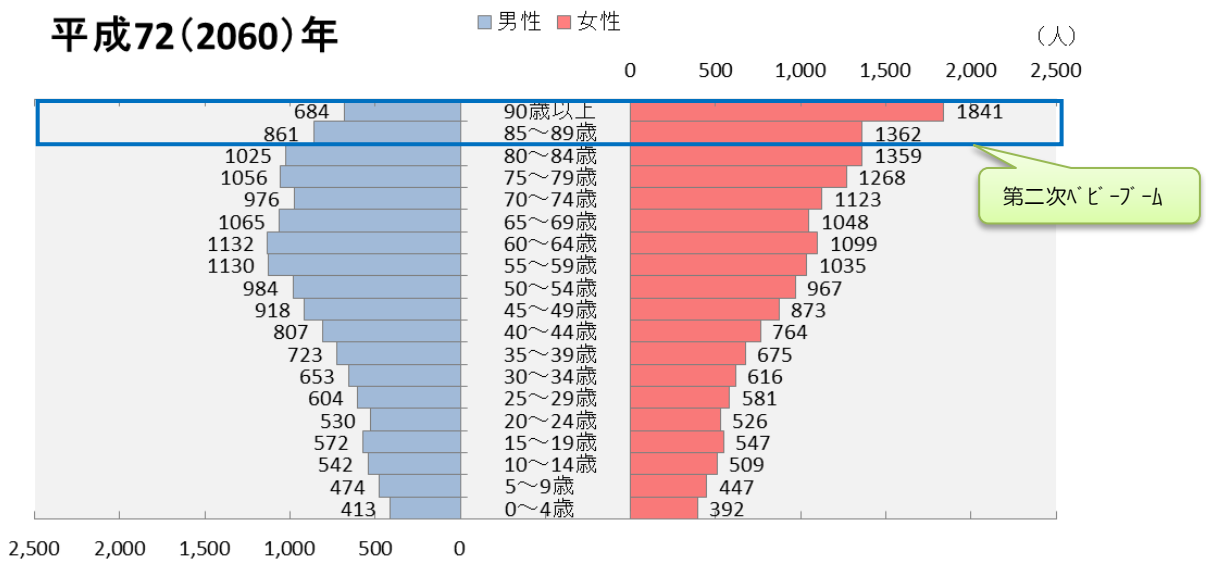
(単位：人)

| | H27 (2015)年 | H32 (2020)年 | H37 (2025)年 | H42 (2030)年 | H47 (2035)年 | H52 (2040)年 | H57 (2045)年 | H62 (2050)年 | H67 (2055)年 | H72 (2060)年 |
|-------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 合計特殊出生率(tfr)パターン1 | 1.358 | 1.329 | 1.304 | 1.305 | 1.308 | 1.308 | 1.308 | 1.308 | 1.308 | 1.308 |
| 合計特殊出生率(tfr)パターン2 | 1.358 | 1.329 | 1.304 | 1.305 | 1.308 | 1.308 | | | | |

平成52(2040)年



平成72(2060)年



【推計方法】

■社人研の将来人口推計（パターン 1）

基 準：平成 22（2010）年国勢調査

推計期間：平成 27（2015）年～平成 52（2040）年まで 5 年ごと

推計方法：

- ・ 5 歳以上の年齢階級の推計には、コーホート要因法を使用します。
- ・ コーホート要因法とは、ある年の男女・年齢別人口を基準として、人口動態率や移動率などの仮定値を当てはめて将来人口を計算するものです。
- ・ 出生仮定：原則、平成 22（2010）年の全国の子ども女性比（15～49 歳女性人口に対する 0～4 歳人口の比）と各市町村の子ども女性比との較差をとり、その比が平成 27（2015）年～平成 52（2040）年まで一定と仮定します。
- ・ 死亡仮定：55～59 歳→60～64 歳以下では、全国と都道府県の平成 17（2005）年→平成 22（2010）年の生残率の比から算出される生残率を各市町村に適用します。加えて、60～64 歳→65～69 歳以上では、都道府県と市町村の平成 12（2000）年→平成 17（2005）年の生残率の比から算出される生残率を適用します。
- ・ 社会移動仮定：平成 17（2005）年～平成 22（2010）年の国勢調査に基づいて算出された純移動率が、平成 27（2015）年～平成 32（2020）年までに定率で 0.5 倍に縮小し、その後はその値を平成 47（2035）年～平成 52（2040）年まで一定と仮定します。

■日本創成会議推計（パターン 2）

- ・ 社人研推計をベースに、社会移動に関し仮定を変更します。
- ・ 社会移動仮定：平成 17（2005）年～平成 22（2010）年の国勢調査に基づいて算出された純移動率が、平成 47（2035）年～平成 52（2040）年まで一定と仮定します。

②人口減少段階の分析

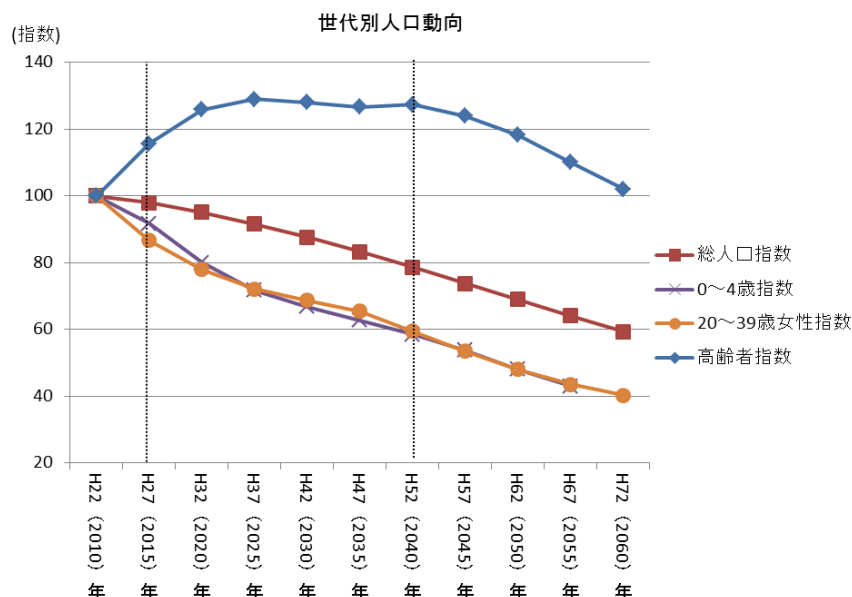
社人研推計によると、平成 22（2010）年の人口を 100 とした場合の老年人口の指数は、平成 37（2025）年までは増加傾向が続きますが、平成 52（2040）年から減少傾向に転じ、平成 62（2050）年以降は本格的な減少段階に入っていくことが予測されています。そのため、市の人口減少段階は、平成 37（2025）～平成 52（2040）年が「第 2 段階」、平成 52（2040）年以降に「第 3 段階」に入ると推測されますが、年少人口や生産年齢人口は平成 52（2040）年時点で、年少人口指数 56、生産年齢人口指数 64 と大幅に減少し、高齢者数の増加が市の人口減少を抑制していくと推測され、雇用の担い手や子どもの減少は深刻になることが予測されます。

【年齢区分別の人口推計（社人研推計）】

（単位：人）

| | H22 (2010)年 | H27 (2015)年 | H32 (2020)年 | H37 (2025)年 | H42 (2030)年 | H47 (2035)年 | H52 (2040)年 | H57 (2045)年 | H62 (2050)年 | H67 (2055)年 | H72 (2060)年 |
|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 総数(男女計) | 54,238 | 53,140 | 51,578 | 49,667 | 47,519 | 45,145 | 42,622 | 39,987 | 37,363 | 34,769 | 32,182 |
| 総人口指数 | 100 | 98 | 95 | 92 | 88 | 83 | 79 | 74 | 69 | 64 | 59 |
| 0～4歳(A)(男女計) | 2,054 | 1,884 | 1,642 | 1,473 | 1,373 | 1,287 | 1,200 | 1,102 | 985 | 881 | 804 |
| 0～4歳指数 | 100 | 92 | 80 | 72 | 67 | 63 | 58 | 54 | 48 | 43 | 39 |
| 20～39歳(B)(女性) | 5,966 | 5,170 | 4,652 | 4,303 | 4,100 | 3,899 | 3,548 | 3,191 | 2,861 | 2,595 | 2,398 |
| 20～39歳女性指数 | 100 | 87 | 78 | 72 | 69 | 65 | 59 | 53 | 48 | 43 | 40 |
| A/B*100 | 34.4% | 36.4% | 35.3% | 34.2% | 33.5% | 33.0% | 33.8% | 34.5% | 34.4% | 34.0% | 33.6% |

| | H22 (2010)年 | H27 (2015)年 | H32 (2020)年 | H37 (2025)年 | H42 (2030)年 | H47 (2035)年 | H52 (2040)年 | H57 (2045)年 | H62 (2050)年 | H67 (2055)年 | H72 (2060)年 |
|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 0～14歳 | 7,138 | 6,554 | 5,820 | 5,185 | 4,654 | 4,288 | 4,009 | 3,730 | 3,418 | 3,087 | 2,777 |
| 指数(2010年=100) | 100 | 92 | 82 | 73 | 65 | 60 | 56 | 52 | 48 | 43 | 39 |
| 15～64歳 | 33,708 | 31,105 | 28,905 | 27,216 | 25,716 | 23,904 | 21,561 | 19,659 | 18,119 | 16,942 | 15,737 |
| 指数(2010年=100) | 100 | 92 | 86 | 81 | 76 | 71 | 64 | 58 | 54 | 50 | 47 |
| 65歳以上 | 13,392 | 15,482 | 16,853 | 17,266 | 17,148 | 16,953 | 17,052 | 16,598 | 15,826 | 14,740 | 13,669 |
| 高齢者指数 | 100 | 116 | 126 | 129 | 128 | 127 | 127 | 124 | 118 | 110 | 102 |



※人口減少段階については、「第 1 段階: 老年人口の増加（総人口の減少）」「第 2 段階: 老年人口の維持・微減」「第 3 段階: 老年人口の減少」の 3 つの段階を経て進行するとされています。社人研の「日本の地域別将来推計人口（平成 25 年 3 月推計）」より作成しました。2010 年の人口を 100 とし、各年の人口を指数化しました。

③自然増減、社会増減の影響度

自然増減、社会増減の影響度を整理すると、以下のとおりです。

社人研推計（パターン 1）と、将来的な合計特殊出生率の改善（平成 52（2040）年：2.1）を見込んだ推計結果（シミュレーション 1）では、平成 52（2040）年の人口は 45,971 人となります。シミュレーション 1 の状況に加え社会移動が均衡（ゼロ）で推移するシミュレーション 2 では、平成 52（2040）年の人口は 46,353 人となります。両ケースを比較すると、自然増減による影響度 107.8%、社会増減による影響度 100.8%となり、自然増減、すなわち合計特殊出生率の改善による効果が人口増加により大きな影響を与えることが期待できます。社会増減による影響が少ない要因は、那珂市の場合、従来から社会減による人口減少の影響が少なかったためであり、社会増減の改善による人口増加の効果も十分に見込むことが可能です。

【自然増減・社会増減の影響度】

（単位：人）

| | H22 (2010)年 | H27 (2015)年 | H32 (2020)年 | H37 (2025)年 | H42 (2030)年 | H47 (2035)年 | H52 (2040)年 | H57 (2045)年 | H62 (2050)年 | H67 (2055)年 | H72 (2060)年 |
|-----------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| パターン1 | 54,238 | 53,140 | 51,578 | 49,667 | 47,519 | 45,145 | 42,622 | 39,987 | 37,363 | 34,769 | 32,182 |
| シミュレーション1 | 54,238 | 53,157 | 51,807 | 50,465 | 49,183 | 47,658 | 45,971 | 44,172 | 42,393 | 40,704 | 39,102 |
| シミュレーション2 | 54,238 | 53,104 | 51,779 | 50,506 | 49,331 | 47,904 | 46,353 | 44,751 | 43,234 | 41,825 | 40,535 |

<上記から算出される影響度>

- ・自然増減の影響度：107.8%（影響度「3」）
- ・社会増減の影響度：100.8%（影響度「2」）

※一般社団法人北海道総合研究調査会による影響度整理

■「自然増減の影響度」

- ・シミュレーション 1 の平成 52（2040）年の総人口／パターン 1 の平成 52（2040）年の総人口の数値に応じて、以下の 5 段階に整理します。

「1」＝100%未満、「2」＝100～105%、「3」＝105～110%、「4」＝110～115%、
「5」＝115%以上の増加

■「社会増減の影響度」

- ・シミュレーション 2 の平成 52（2040）年の総人口／シミュレーション 1 の平成 52（2040）年の総人口の数値に応じて、以下の 5 段階に整理します。

「1」＝100%未満、「2」＝100～110%、「3」＝110～120%、「4」＝120～130%、
「5」＝130%以上の増加

自然増減の影響度・社会増減の影響度について茨城県内の各市町村の状況を整理すると、那珂市の自然増減の影響度「3」・社会増減の影響度「2」は、他の14市町村と同様の状況にあり、県内で最も多い状態です。

| | | 自然増減の影響度 | | | | | |
|----------|----|----------|---------------------|---|-----------------------|---|-------------------|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 総計 |
| 社会増減の影響度 | 1 | | 牛久市、鹿嶋市、 守谷市、東海村 | 水戸市、龍ヶ崎市、 つくば市、ひたちなか市、 神栖市、茨城町 | | | 10 市町村 (22.7%) |
| | 2 | | つくばみらい市 | 土浦市、古河市、 石岡市、結城市、 常総市、笠間市、 取手市、潮来市、 那珂市、坂東市、 かすみがうら市、 鉾田市、小美玉市、 阿見町、八千代町 | 大洗町、利根町 | | 18 市町村 (40.9%) |
| | 3 | | | 日立市、下妻市、 高萩市、北茨城市、 常陸大宮市、筑西市、 稲敷市、桜川市、 行方市、大子町、 美浦村、境町 | 常陸太田市、城里町、 河内町、五霞町 | | 16 市町村 (36.4%) |
| | 4 | | | | | | — |
| | 5 | | | | | | — |
| | 総計 | — | 5 市町村 (11.4%) | 33 市町村 (75.0%) | 6 市町村 (13.6%) | — | |

資料：国の人口推計シミュレーションシート、および内閣官房まち・ひと・しごと創生本部提供資料をもとに作成

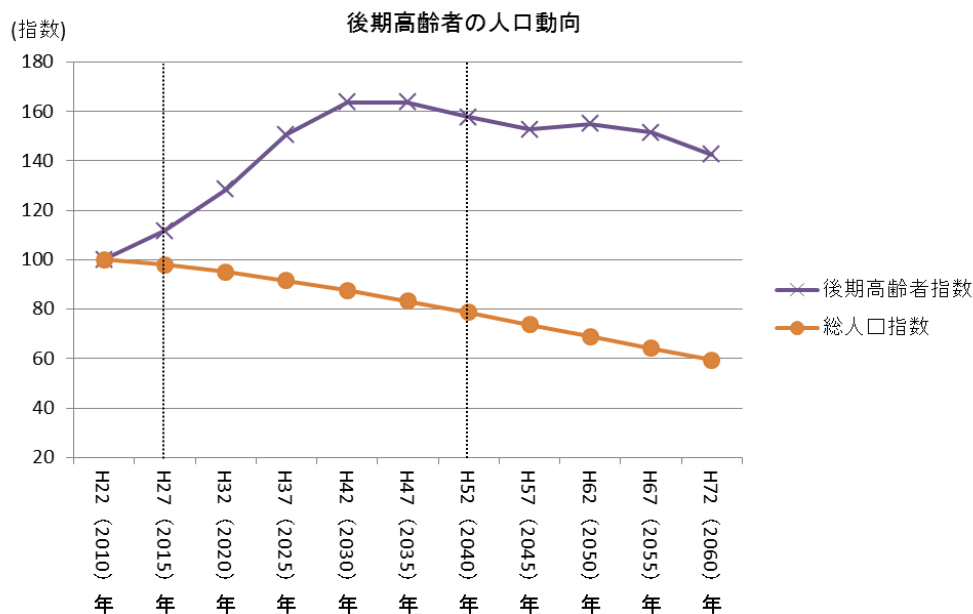
(2) 人口減少が地域に与える影響

将来人口の減少による地域住民の生活や地域経済、行政運営上にもたらされる影響について整理すると、以下のようなことが予想されます。

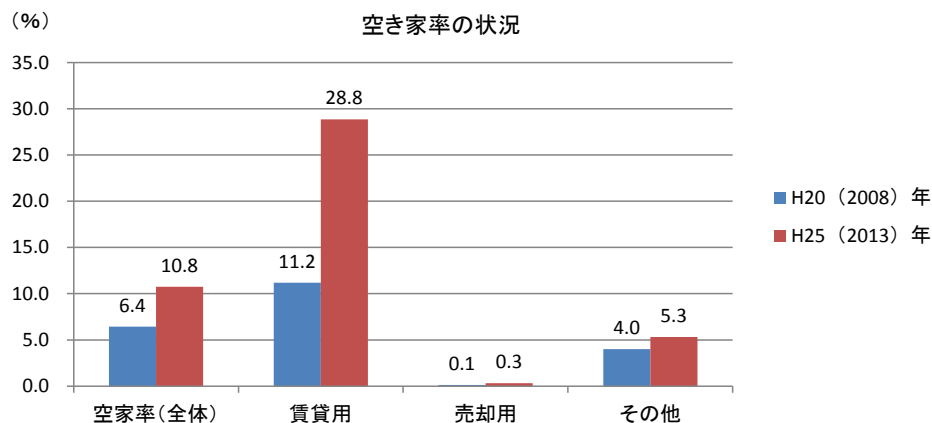
①地域住民の生活への影響

《高齢化進展による影響》

- 高齢化の進行により、医療機関・介護施設などの需要増加が見込まれる一方で、地域内での個人開業医の高齢化により医療施設の廃業、後期高齢者増加に伴う介護施設の不足が懸念されます。
- 高齢化の進展による地域コミュニティの担い手不足が危惧されます。



- 人口減少・世帯数減少により、空き家の増加が見込まれます。市街化調整区域における既存住宅の空き家化、昭和時代に開発された団地内の空き家、老朽アパートの空き家などの問題が顕在化します。

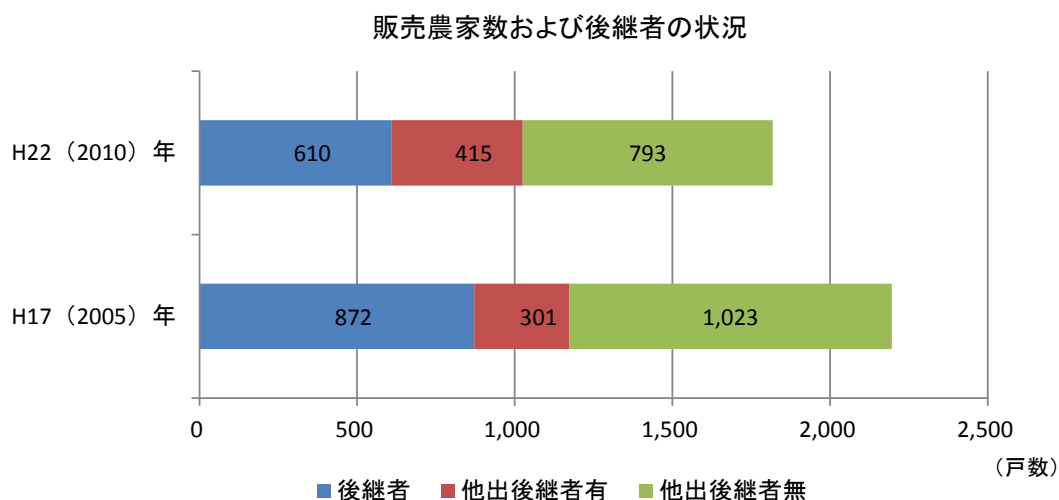


- 後期高齢者（交通弱者）の増加により、移動手段確保の必要性が高まる一方で、公共交通機関（鉄道）の便数減少により、市民の利便性が低下します。

②地域経済への影響

＜担い手不足の影響＞

- 農業従事者の高齢化に伴い、担い手が不足するとともに遊休農地が増加し、農地の荒廃が進行します。
- 生産年齢人口の減少により、事業所における従業員の確保が困難となります。



＜経済活動の縮小＞

- 人口減少による需要減少に伴い、商業・サービス施設や事業所が減少し、空き店舗や空き事業所が増加します。

③行政運営への影響

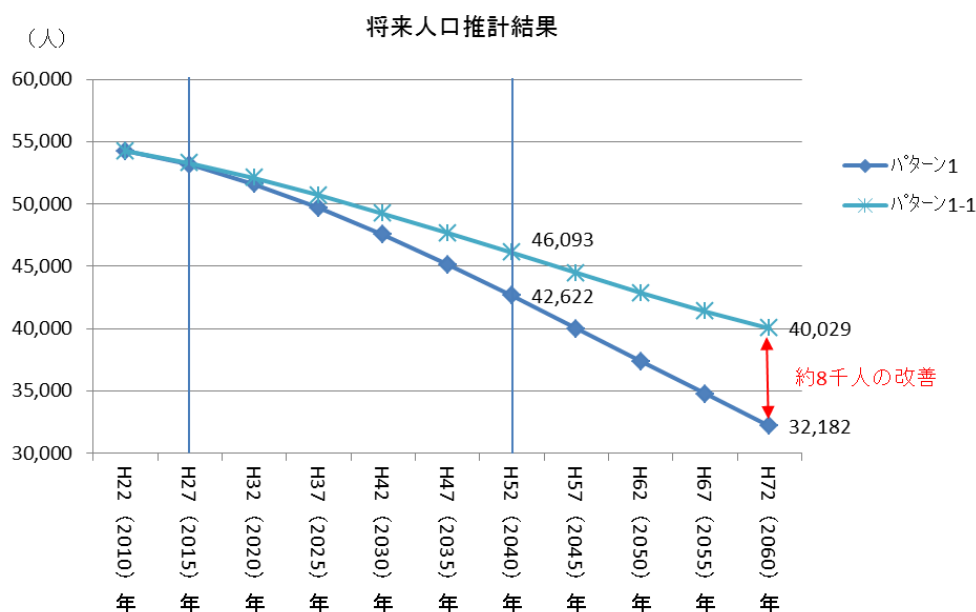
- 働き手の減少および事業所数の減少に伴う税収の減少と、高齢化の進展による社会保障費負担の増大により、行財政運営の困窮が危惧されます。
- 年少人口の減少に伴う廃校や人口減少による廃施設が増加し、利活用問題が顕在化します。
- インフラの維持・更新の問題が顕在化します。
- コミュニティ縮小に伴う行政負担（社会コスト）が増加します。

3. 人口の将来展望

(1) 将来展望人口算出にあたっての人口推計

【国が目標とする合計特殊出生率による人口推計（パターン1-1）】

那珂市の将来展望人口を検討するため、社人研推計（パターン1）を基に国が目標とする合計特殊出生率まで改善（平成42（2030）年1.8（※1）、平成52（2040）年2.07（※2））した場合について人口推計（パターン1-1）を行うと、平成52（2040）年の人口は46,093人となります（社会移動に関しては社人研パターン1と同じ）。



【将来人口推計】

(単位：人)

| | H22 (2010) 年 | H27 (2015) 年 | H32 (2020) 年 | H37 (2025) 年 | H42 (2030) 年 | H47 (2035) 年 | H52 (2040) 年 | H57 (2045) 年 | H62 (2050) 年 | H67 (2055) 年 | H72 (2060) 年 |
|---------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| パターン1 | 54,238 | 53,140 | 51,578 | 49,667 | 47,519 | 45,145 | 42,622 | 39,987 | 37,363 | 34,769 | 32,182 |
| パターン1-1 | 54,238 | 53,288 | 52,089 | 50,699 | 49,213 | 47,650 | 46,093 | 44,444 | 42,862 | 41,390 | 40,029 |

【合計特殊出生率】

(単位：人)

| | H27 (2015) 年 | H32 (2020) 年 | H37 (2025) 年 | H42 (2030) 年 | H47 (2035) 年 | H52 (2040) 年 | H57 (2045) 年 | H62 (2050) 年 | H67 (2055) 年 | H72 (2060) 年 |
|---------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| パターン1 | 1.358 | 1.329 | 1.304 | 1.305 | 1.308 | 1.308 | 1.308 | 1.308 | 1.308 | 1.308 |
| パターン1-1 | 1.500 | 1.600 | 1.700 | 1.800 | 1.935 | 2.070 | 2.070 | 2.070 | 2.070 | 2.070 |

※1：国の長期ビジョンにおいて、全国の若者（18～34歳）の結婚および出産の希望が実現した場合の出生率を国民の「希望出生率」とし、1.8になるとしています。

※2：人口が将来にわたって増えも減りもしないで、親の世代と同数で置き換わるための合計特殊出生率を「人口置換水準」といい、2.07としています。

(2) 目指すべき将来方向

国の長期ビジョンでは、将来にわたって「活力ある日本社会」を維持することを掲げ、平成 72 (2060) 年までについて、以下の目標を掲げています。

| | |
|---|--|
| 1 | 人口減少に歯止めをかける。 |
| 2 | 若い世代が持っている結婚・出産・子育てに対する希望が実現すると、出生率は 1.8 程度 (※) に向上する (平成 42 (2030) 年)。 |
| 3 | 人口減少に歯止め (平成 52 (2040) 年頃に出生率が 2.07 まで回復) がかけると、平成 72 (2060) 年に 1 億人程度の人口が確保される。 |

那珂市においても、若年女性層の減少の影響から出生数の減少が進行し、人口の減少は避けられないのが実情です。また、今後は人口減少が**加速度的に進行していくこと**が予想されており、人口減少が地域に与える影響で整理したように、活力ある地域社会の維持にとって、高齢化の進展による医療・介護の問題、空き家の増加、**地域コミュニティの担い手、地域産業における担い手や遊休農地**などの懸念が増していくことになります。

そこで、人口減少の抑制**対策**にいち早く取り組むことが重要であり、以下の展開方向により、那珂市の活力を維持していく**必要があります**。

(1) 若い世代の結婚・出産・子育ての希望を早期にかなえる

那珂市の人口減少を抑制するためには、若い世代の希望を実現し、できるだけ早期に合計特殊出生率を上昇させていくことが重要です。結婚から子育てに至る一貫した支援の充実を進め、**出生者数の維持**を図ります。

(2) 社会動態における転入超過の維持・増加を図る

社会動態に関しては、県北中山間地域からの転入増加を**主因として**、僅かですが転入がプラスとなっています。**転入超過を維持している背景には、那珂市の相対的な住みやすさがあり、今後も住みやすさを向上するための施策を展開することにより、総体として転入超過の維持・増加を図ります。**

(3) 若い世代の転出を抑制する

若年層に関しては一貫して転出が超過していることや高校生の地元に対する愛着度・定住意識が若干低めであることから、子どものころからの愛郷教育の充実、将来的な地域への還流を促進するための施策の実行と雇用の場の確保などの環境整備を進めることにより、若い世代の転出抑制を図ります。

※全国の 18 歳から 34 歳の男女にアンケート調査を行ったところ、9 割以上が結婚を望み、**また、2 人以上の子どもを授かりたいと考えていることが分かりました。**このような若年層の「希望」が実現すると出生率は 1.8 程度となります。

(3) 将来展望人口算出

結婚・出産・子育てアンケート調査を基に、今後の合計特殊出生率の改善および社会動態の改善の見込みを踏まえた仮定値により、将来人口を展望します。

①現下の人口状況

平成 27 (2015) 年 1 月 1 日時点での那珂市の人口は、53,706 人（常住人口調査）となっています。平成 25 年 3 月に社人研が行った推計による平成 27 (2015) 年の推計人口 53,140 人に比べ、約 500 人程度推計値を上回っていることになります。

②結婚・出産・子育てアンケートによる市民希望の実現（合計特殊出生率の改善）

若い世代の既婚者や独身者は、結婚・出産・子育ての希望を実現できていないことが合計特殊出生率の低下要因となっています。若い世代の希望する年代（時期）での結婚の実現、出産を希望する子ども数の実現を通して、合計特殊出生率の改善を図ることができます。

那珂市が実施した結婚・出産・子育てアンケート調査では、市民希望出生率（若い世代の結婚・子育ての希望を実現することによって達成される合計特殊出生率）（※）は 1.91 と、国の国民希望出生率 1.8 と比較して幾分上回る結果となりました。高校生アンケートにおいても、欲しい子ども数は 2.18 人となりました。このことから、那珂市の若い世代の希望を実現することにより、国が目標としている平成 42 (2030) 年に合計特殊出生率 1.8 程度への改善は可能と考えられます。その場合には、平成 52 (2040) 年の人口は約 46,000 人、さらに、平成 52 (2040) 年に人口置換水準である合計特殊出生率 2.07 まで改善することにより、平成 72 (2060) 年に約 40,000 人となることが推計されます。

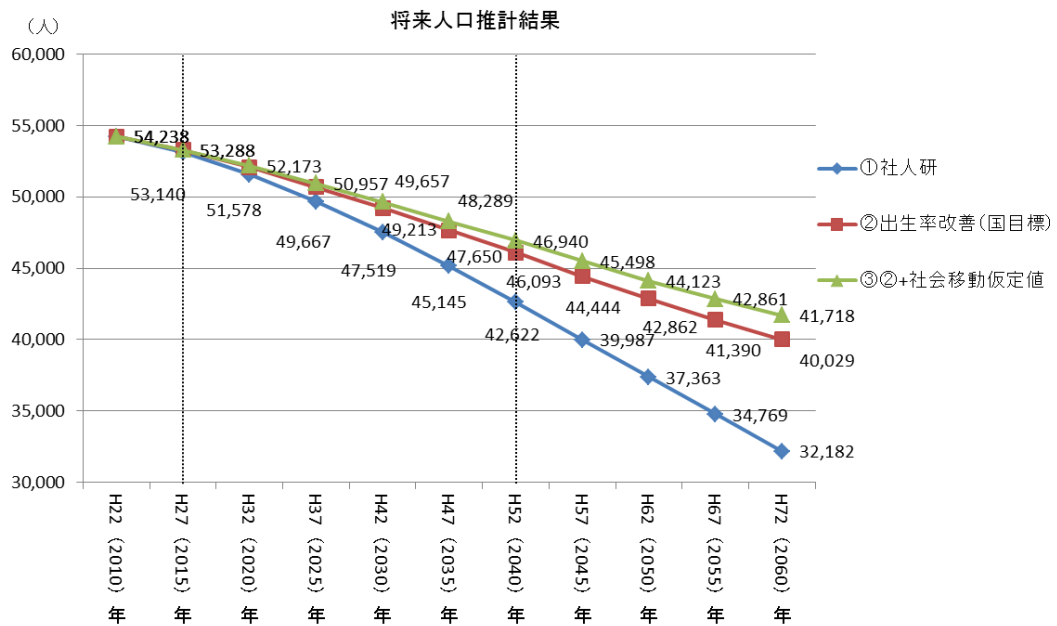
③今後の転入・転出の仮定値（社会移動の改善）

那珂市の近年（平成 21 (2009) 年～平成 25 (2013) 年）の転入・転出の状況は年ごとにプラスとマイナスになるケースがありますが、5 年間の平均では、社会移動は転入超過となっています。

今後の那珂市の転入・転出では、総合戦略の施策によって、若者や若年女性層を中心に、就職希望を実現することにより転出抑制を図ります。また、暮らしやすさの向上によりアクティブシニア層および子育て世代層の移住により年間 30 人程度の社会増となることを仮定し、人口推計を行いました。

人口は平成 42 (2040) 年で 46,900 人程度、平成 72 (2060) 年で 41,700 人程度となることが推計されます。

| |
|--|
| ※市民希望出生率＝（既婚率：37.4%×予定子ども数：2.32+未婚率：62.6%× 結婚意向：93.4%×希望子ども数：2.01）×離別等効果：0.938≒1.91 |
|--|



【将来人口推計結果】

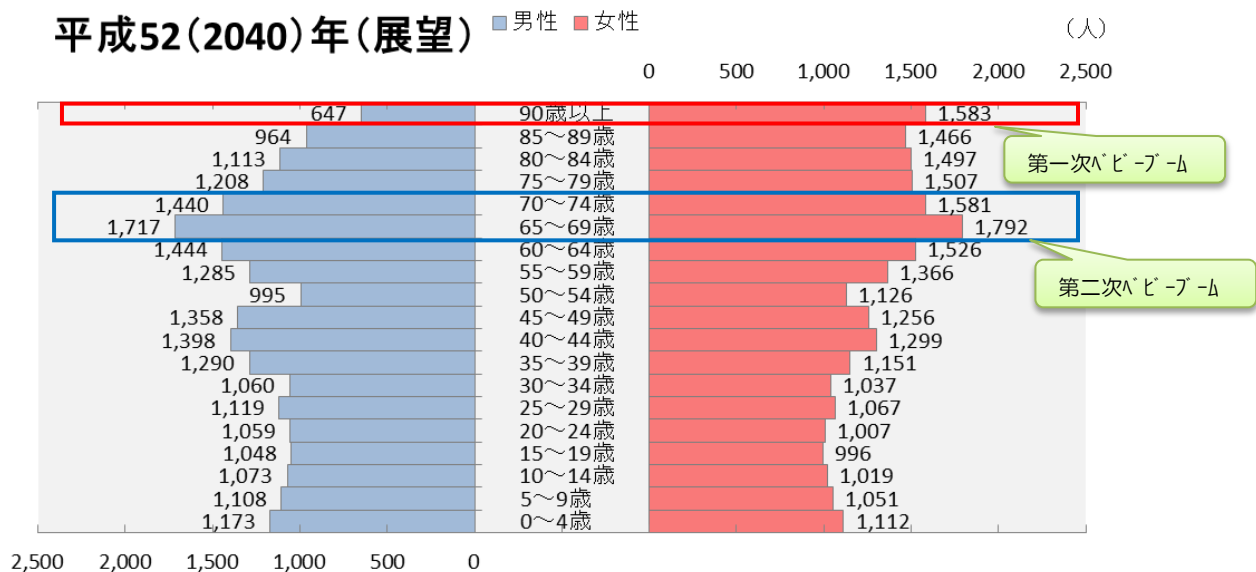
(単位: 人)

| | H22 (2010) 年 | H27 (2015) 年 | H32 (2020) 年 | H37 (2025) 年 | H42 (2030) 年 | H47 (2035) 年 | H52 (2040) 年 | H57 (2045) 年 | H62 (2050) 年 | H67 (2055) 年 | H72 (2060) 年 |
|-------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| ①社人研 | 54,238 | 53,140 | 51,578 | 49,667 | 47,519 | 45,145 | 42,622 | 39,987 | 37,363 | 34,769 | 32,182 |
| ②出生率改善(国目標) | 54,238 | 53,288 | 52,089 | 50,699 | 49,213 | 47,650 | 46,093 | 44,444 | 42,862 | 41,390 | 40,029 |
| ③②+社会移動仮定値 | 54,238 | 53,288 | 52,173 | 50,957 | 49,657 | 48,289 | 46,940 | 45,498 | 44,123 | 42,861 | 41,718 |

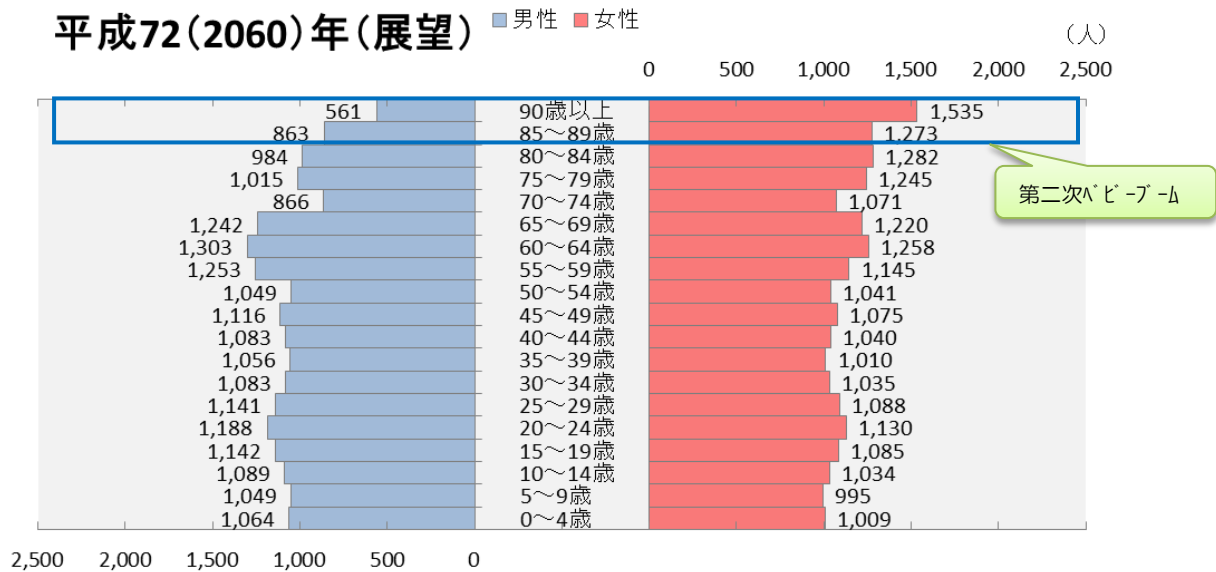
④将来展望

以上のことから、人口ビジョンにおける那珂市の将来人口の展望では、平成 52 (2040) 年の人口は 47,000 人程度とすることを目標とします。また、平成 72 (2060) 年の人口は 42,000 人程度を展望します。

平成52(2040)年(展望)



平成72(2060)年(展望)



II. 総合戦略

1. 基本的な考え方

(1) 総合戦略策定に向けた基本的な考え方

「第Ⅰ章人口ビジョン」では、本市の人口動態の現況を分析し、課題を解決するための方向性を検討するとともに、市民の意識調査結果などを加味した将来人口推計を行いました。人口減少克服に向け本市が目指すべき方向や将来展望を整理すると以下のとおりです。

①人口減少社会への対応

那珂市の社会移動をみると、東京圏に対して転出超過の推移が継続しています。一方、周辺地域との関係では、水戸市に対しては転出超過となっているものの、常陸大宮市や日立市など県北地域からは転入超過の傾向にあることから、相対的な人口減少は緩やかなものにとどまっています。

しかしながら、今後の人口減少が加速度的に進行することが見込まれる状況にあるのは間違いなく、早急な対策が必要となっています。

このため、合計特殊出生率の改善と社会増減の改善をバランスよく図るための施策展開が求められています。

②地域経済縮小への対応

東京圏への転出超過の理由は、若者世代の就職時によるものが大きく、その抑制のためには、若者の雇用の確保が欠かせない状況にあります。また、東京圏への転出を抑制し、現在の転入超過を維持できたとしても、現状の年齢構成からみて、今後の人口減少、特に、年少人口および生産年齢人口の減少は避けることはできないことから、地域経済の需要（消費市場）の縮小に加え、事業所・農業など地域の産業現場において、深刻な人手不足を招くことが十分に想定される状況にあります。

こうした地域経済の縮小は、住民の経済力の縮小につながり、地域社会のさまざまな基盤の維持を困難にすることが懸念されます。

このように、那珂市では人口減少を契機に「人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる」という負のスパイラル（悪循環の連鎖）に陥るリスクがあります。

従って、人口減少を克服し地方創生を成し遂げるため、以下に示す3つの課題への取組が必要になります。

○那珂市への定住・人口流入を促進させる

若い世代を中心とする那珂市から東京圏への人口流出に歯止めをかけるとともに、生産年齢人口の人口流入・定住化を促進するため、「しごとの創生」と「ひとの創生」の循環を図ることが重要になります。

○若い世代の就労・結婚・子育ての希望を実現する

人口減少を克服するため、若い世代が安心して就労し、希望どおり結婚し、妊娠・出産・子育てができる環境を整備するとともに、市民が健康で生活できる社会経済環境を実現することが重要になります。

○人口減少に伴う地域社会の変化に柔軟に対応する

人口減少に伴う地域の変化に柔軟に対応するとともに、那珂市が直面する課題を解決し、安全・安心で心豊かな生活が将来にわたって確保される地域社会を構築することが重要になります。

③まち・ひと・しごとの創生

地方創生は「ひと」と「しごと」の好循環を生み出すことが中心であり、長期的には那珂市および周辺都市圏において、「ひと」が「しごと」をつくり、「しごと」が「ひと」を呼びこむ流れをつくる必要があります。また、その流れを支える基盤としての「まち」を整備していく必要があります。

具体的には、以下に示す3つの視点で一体的に取り組めます。

○しごとの創生

若い世代の女性を中心として若者が那珂市内および周辺地域において安心して働くことができるよう、新たな付加価値を生み出す企業創業の支援、企業育成の支援、農業の活性化などに取り組み、安定的な「雇用の量」の確保・拡大を実現するとともに、「賃金」＋「安定した雇用形態」＋「やりがい」といった要件を満たす「雇用の質」を重視した「しごとの創生」に取り組めます。

那珂市への新しい人の流れをつくるため、ICT（※）の活用を進め、サテライトオフィスやテレワークなどの時間や場所に縛られない「しごとの創生」に取り組めます。

新たな雇用を創出するためには、多様な価値観を取り込むことが重要であり、全ての市民が活躍できる環境づくりが必要です。これらにより那珂市の魅力を高めることは、市民が住み続けることにつながり、那珂市への新たな人の流れを促進することにもなります。

○ひとの創生

那珂市への新たな人の流れを促進するためには、市の魅力を適時・適切に発信していくことに加え、市民や移住の可能性を持つ市外の方々に、それぞれの求める市内の情報を届けることが重要です。

くらしに関して心配することなく、しごとにチャレンジでき、安心して子どもを産み育てられるよう、結婚から妊娠・出産・子育て、教育までの切れ目のない支援を実現していきます。また、市民の健康づくりをより一層推進し、健康で住みやすい地域の環境づくりに努めます。

那珂市の豊かな自然など地域資源の活用や、住みよさを理解してもらうことで、転出の抑制と交流人口の増加を図り、交流から定住への意識の転化につなげ、民との連携により首都圏や近隣自治体からの移住・定住を促進する「ひとの創生」に取り組みます。

○まちの創生

「しごと」と「ひと」の好循環を支えるため、活力があり、安全・安心な環境の確保に向けた取組を支援し、市民の満足度を高める取組によって、居住地として魅力を高め、市民が市内での生活やライフスタイルの素晴らしさを実感できるよう、地域資源・ICT（※）などを活用した住みやすい「まちの創生」に取り組みます。

施設の有効活用、空き家対策、那珂市の実情を踏まえた地域のあり方の検討や公共交通網の形成、広域的な経済・生活圏の形成など、人口減少に対応した「まちの創生」に取り組みます。

※情報処理および情報通信、つまり、コンピュータやネットワークに関連する諸分野における技術・産業・設備・サービスなどの総称のことで、Information and Communication Technology の略です。

(2) 総合戦略に基づく施策の立案・実行にあたっての基本方針

人口減少問題などへの対策としてこれまで講じられてきた取組は、個々のレベルでは一定の成果を上げているものの、大局的には地方の人口流出、少子化に歯止めがかかっていないのが現状です。

そこで、総合戦略においては、下記に示す『政策 5 原則』『PDCAサイクルの構築』の基本方針のもと、施策を立案し展開していきます。

①政策 5 原則（施策の立案に向けて）

人口減少の克服と地方創生を確実に実現するため、次の 5 つの政策原則に基づいた施策を立案します。

○自立性

- ・将来の地域経済社会自立と発展に貢献できる施策
- ・一過性の対処療法的なものにとどまらず、構造的な問題に対処し、地域、民間事業者、個人などの自立につながる施策

○将来性

- ・地域の夢を自主的かつ主体的に展望する施策
- ・活力ある地域産業の維持・創出につながる施策

○地域性

- ・地域の実情や特色を客観的に分析した施策
- ・支援対象事業の持続性の検証の結果が反映されるプロセスが盛り込まれている施策

○直接性

- ・産官学金労が一体となって連携し、集中的・重点的に進める効果の高い施策
- ・民間を含めた連携体制の整備が図られている施策

○結果重視

- ・施策効果・成果を客観的に検証できる施策
- ・継続的な取組改善が容易に可能である施策

②PDCAサイクルの構築（施策の実行に向けて）

政策5原則に基づいて立案した施策の実行に向けて、国の伴走的な支援を受けながら中長期的な視野で**施策の効果を検証し**、改善を図るためのPDCAサイクルを構築します。

具体的には、市民や各種団体などの参画による外部組織を立ち上げ、各施策の効果を客観的に評価できるように設定した**重要業績評価指標（KPI）**に基づき、**毎年検証を行い、総合戦略の対象期間においても、必要に応じて施策の見直し改善や、総合戦略の改訂を行います。**

OPlan（計画）

- ・客観的データに基づいた戦略を立てるとともに、産業界・行政機関・教育機関・金融機関などで構成する外部委員会の意見を踏まえ、**総合戦略**を策定します。

ODo（実行）

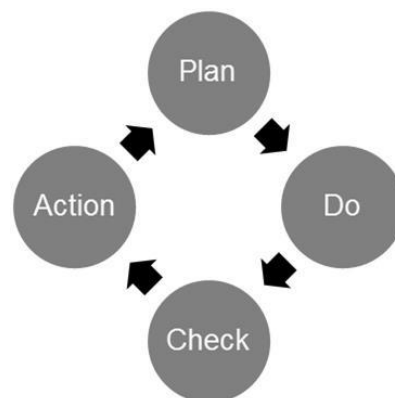
- ・住民、関係団体や民間事業者などの参加・協力を得ながら、効果的・効率的に施策を実行します。

OCheck（評価）

- ・戦略ごとの基本目標（数値目標）、施策ごとの重要業績評価指標（KPI）の達成度を、毎年検証します。

OAction（改善）

- ・上記評価を踏まえ、施策の見直しや必要に応じて総合戦略の改訂を行います。



③国・県との連携（制度の活用に向けて）

総合戦略の目標を実現するため、茨城県と意見交換や協議を行いながら、連携して総合戦略を策定、推進するとともに、国の地方創生にかかる各種制度を活用し、効率的かつ円滑に事業を推進します。

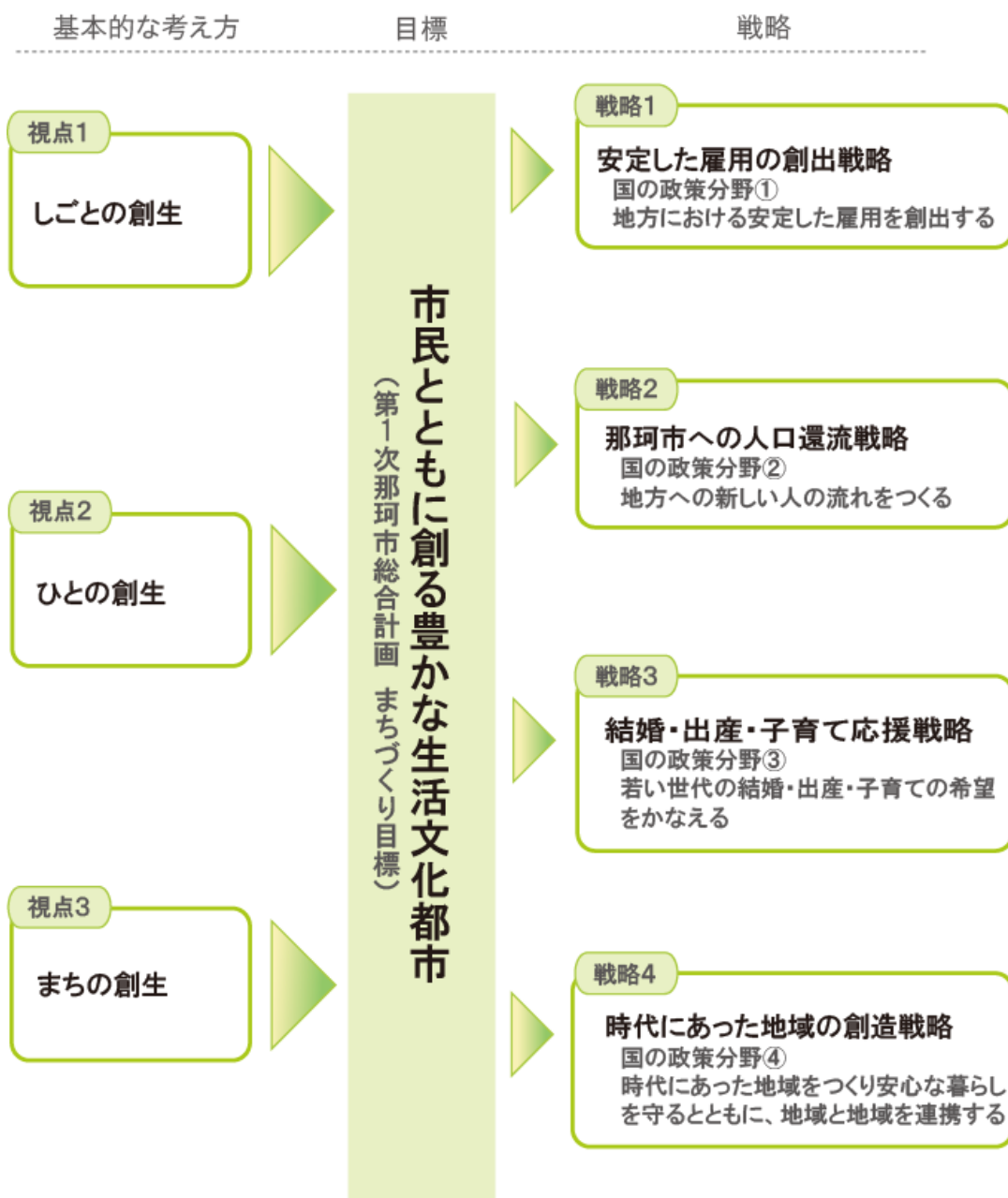
具体的には、改正地域再生法により創設される「地方拠点強化税制」を活用し、茨城県と連携し企業の本社機能の強化支援や、いばらき移住・二地域居住推進協議会へ参加し、那珂市への「ひと」と「しごと」の創生に取り組みます。

2. 総合戦略の展開方向

(1) 基本戦略

第1次那珂市総合計画で定めているまちづくりの目標「市民とともに創る豊かな生活文化都市」を総合戦略における目標に設定するとともに、国の総合戦略が定める4つの政策分野に沿った戦略を展開します。

総合戦略の展開方向体系図



(2) 目指す方向

4つの戦略によって、実現を目指す方向として、3つの攻め筋を設定します。

①市民の幸せ家族づくりプラン（那珂市に住んでいて良かったと思える気持ち）

那珂市に在住する市民の幸福感（那珂市に住んでいて良かったと思える気持ち）の向上は、まちづくり・地域活性化のためには欠かせないものです。子育て世代の出産や子育て、独身者の結婚に対する希望を実現するための環境整備・施策の実行は、転出者の抑制を図るためには、何よりも重要なことです。結婚・出産・子育てに対する支援をはじめとして、若年層を中心に生活基盤となる質の高い仕事の創出や職場の提供、**従来型の地縁・血縁性をベースとした自治活動に加え、ICTの活用や特定の社会課題の解決に向けた新たなコミュニティや協働形態づくりを推進することにより、全ての市民が地域に溶け込める居場所をつくり、幸せ家族づくりを推進します。**

②那珂市に出自・関係を持つ方々に対するふるさと回帰促進プラン （那珂市に戻って良かったと思える気持ち）

那珂市に生まれ、就学や就職などを機に東京圏に移住していった方を中心に、ふるさと納税の賛同者、那珂市の学校の卒業生、まちづくりイベントへの参加者などの那珂市に関係を持つ方（那珂市の交流市民）に対して、**来訪頻度の増加、二地域居住の促進、最終的には移住へと結びつけることのできるライフイベント（※1）時への働きかけや、ICTを活用したつながりツール（SNS（※2））・情報提供を進めるとともに、受け入れ体制の整備を図り、ふるさと回帰を促進させます。**

③那珂市との新たな関係を築いてもらえる域外市民の増加プラン （那珂市を知って良かったと思える気持ち）

那珂市のまちづくりの理念を再整理・再構築し、これまで那珂市を知らない将来の移住を念頭に置く首都圏住民層に対して、ICTを活用したシティプロモーション（※3）を実施するとともに、さまざまなルートを通したセールス活動の推進や、イベントや体験プログラムによる認知機会を提供することにより、将来的な居住に向け段階的な働きかけを図ります。

※1：人生における節目となる就学・就職・結婚・退職などの出来事のこと。

※2：人と人とのつながりを促進・サポートするコミュニティ型のWebサイトのこと。

※3：観光客増加・定住人口獲得・企業誘致等を目的として、**地域のイメージを高め、知名度を向上させる活動のこと。**

3. 4つの戦略

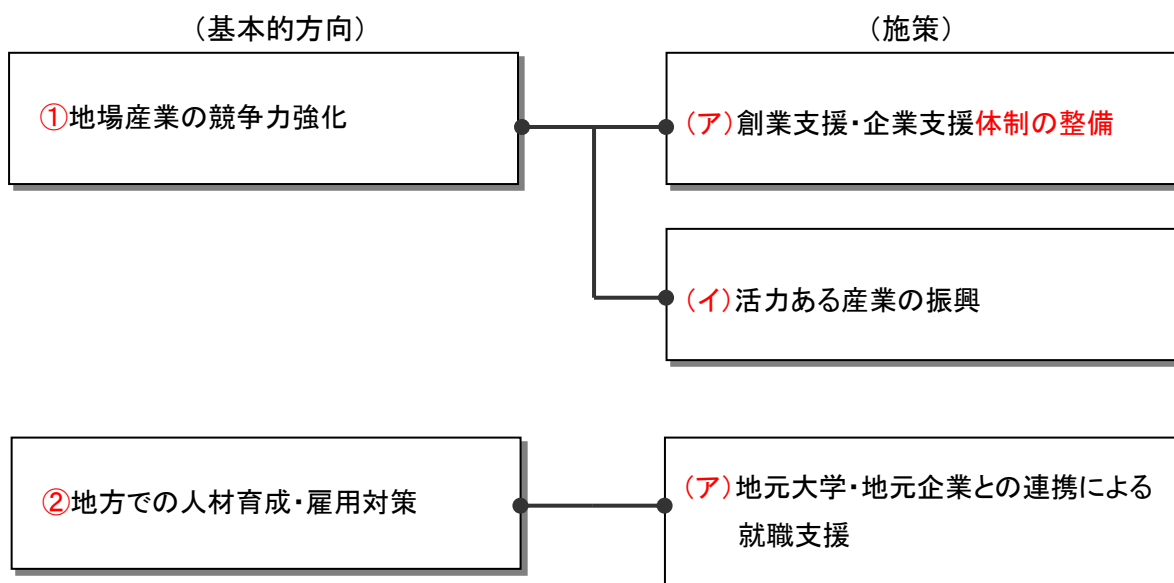
戦略1「安定した雇用の創出戦略」

(1) 基本的な方向

- 市民生活の安定や進学時に転出した若者層を中心としたUターンおよびI・Jターンをする人たちの生活を支えるためには、雇用の確保や創出が必要であり、それぞれのニーズに応じた適切な支援展開（就職期からライフステージに対応した多様な就業形態の展開促進）の強化を図ります。
- 創業などの新規事業は、起業家の存在が前提となりますので、産業競争力強化法に基づく「創業支援事業計画」に沿った創業支援の強化を図り、就業の場の確保に努めます。
- 基幹産業である農業は、農地集積を促進させるとともに、地域農業の活性化を図ります。一方、商工業では、域外産業の新規ビジネス展開への支援と、域内産業での地域内経済循環の促進を図ることで、新たな雇用の創出に努めます。
- 女性が安心して働くことができる場の提供を図り、那珂市に魅力を感じ、住み続けることにつなげていきます。また、地元大学・地元企業と連携して、若者の定住支援、地域の人材育成に努めます。

| 数値目標 | 基準値 | | 目標値 | |
|----------------------|------------------------|-------|---------|-------|
| 15歳～29歳就業率 (国勢調査) | H22 | 50.1% | H32 | 51.8% |
| 15歳～29歳社会移動数 | H26の転出超過数を 規準(0)とする | | H28～H31 | 累計40人 |

（２）施策体系



（３）具体的な施策内容

① 地場産業の競争力強化

(ア) 創業支援・企業支援体制の整備

金融機関や産業界と連携し、**若者や女性を含めた創業希望者に対しクラウド・ファンディング（※）**など小口投資の新たな資金調達手法や融資制度を紹介します。

企業コーディネーターを配置し、金融機関やひたちなかテクノセンターと連携しながら、市内事業所の需要や動向の把握に努め、支援体制相談窓口の強化を図ります。**また、相談窓口を利用し、関係機関と連携しながら、若者や女性の需要が見込まれる卸・小売業や医療・介護の分野などの雇用創出、人材育成について後押しします。**

| 重要業績評価指標：K P I | | | | |
|----------------|-----|-------------|---------|------|
| 指標 | 現状値 | | 目標値 | |
| 創業支援数 | H26 | 一件 | H29-H31 | 累計6件 |
| 具体的な事業 | | | | |
| ○創業支援体制の構築 | | ○よろず相談窓口の開設 | | |

※クリエイターや起業家が資金を調達する手法で、事業に共感する不特定多数の投資家などから出資金や寄付金を集める仕組みのこと。

(イ) 活力ある産業の振興

農業については、土地改良事業による基盤整備や担い手への農地集積を推進することで、営農基盤の強化および農地の保全に努めます。また、6次産業化による地域農業の活性化に向け、企業や教育機関などの多様な主体同士の連携をはじめ、各種取組を推進します。新規就農者や担い手などの育成については、引き続き関係機関と連携し、ニーズに応じた支援の充実に努めます。

商工業については、地域資源を活用し、農商工連携による特産品の開発や販路拡大、企業間のマッチングを支援します。また、若者や女性の就業比率が高い業種について、ICTを利用した付加価値化を支援します。

| 重要業績評価指標：K P I | | | | |
|--------------------|-----|---------------|-----|-------|
| 指標 | 現状値 | | 目標値 | |
| 担い手による農地集積面積 | H25 | 600ha | H31 | 650ha |
| ブランド化した特産品数 | H26 | 6 商品 | H31 | 30 商品 |
| 具体的な事業 | | | | |
| ○農地集積の推進 | | ○6次産業化の推進 | | |
| ○ICTの活用による域外への販路拡大 | | ○特産品ブランド化推進事業 | | |

②地方での人材育成・雇用対策

(ア) 地元大学・地元企業との連携による就職支援

若い世代の転出超過は、大学進学時や就職時に多いことから、茨城県や地元大学、地元企業と連携しながら、地元の魅力発信に取り組み、地方に定住して働くことのできる雇用の創出、人材の育成に努めます。また、地元大学、地元企業などと連携しながら、地域づくりの担い手の育成を支援します。

| 重要業績評価指標：K P I | | | | |
|----------------|-----|-------------|-----|-----|
| 指標 | 現状値 | | 目標値 | |
| 地元産官学との連携事業 | H26 | 一件 | H31 | 1 件 |
| 具体的な事業 | | | | |
| ○地元産官学との連携 | | ○地元企業への就職支援 | | |
| ○人材育成への支援 | | | | |

戦略2 「那珂市への人口還流戦略」

(1) 基本的な方向

○那珂市に縁（地の利）がある首都圏在住者に対して、顧客情報の整理を進めるとともに、ライフステージに応じた情報発信の強化を、移住ナビなどとの連携を含め行い、那珂市の住みよさをアピールする**ため**、移住を検討している人への相談窓口を開設します。

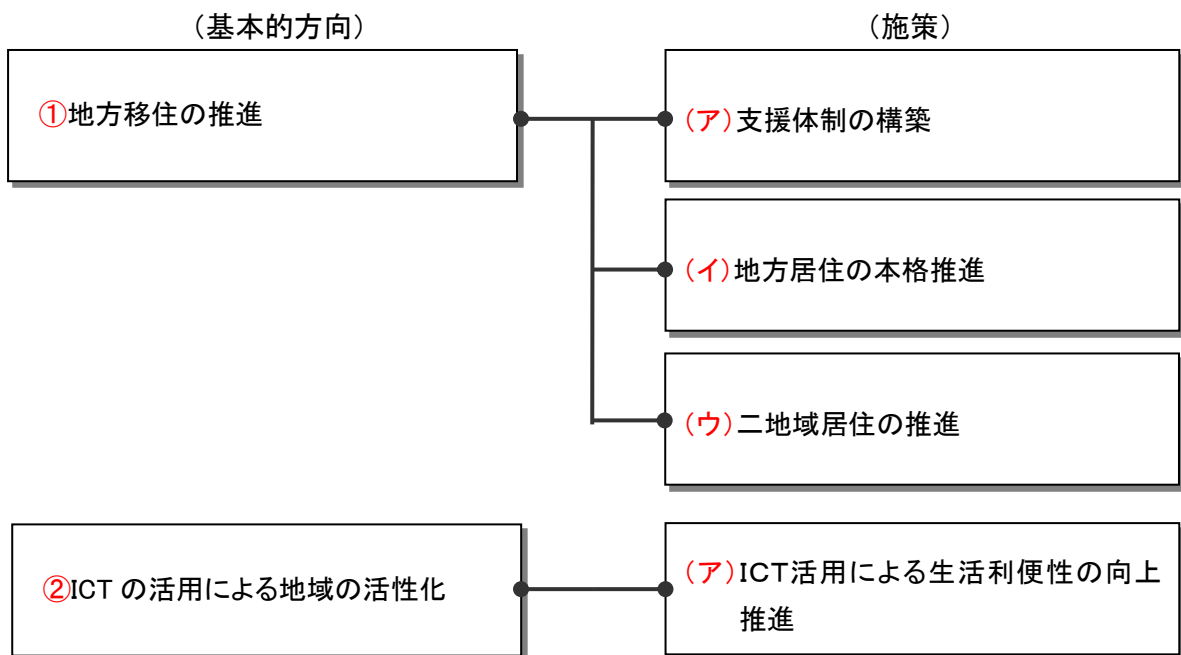
○近隣市町村からのさらなる転入者拡大を目指し、那珂市を選んでもらい、ずっと住み続けたいとなるように、子育て世帯に対しての住宅取得を支援します。

○交流人口を増加させる取組や、お試し居住や二地域居住、テレワーク、サテライトオフィスなど、首都圏から那珂市への移住・転入者の拡大を推進するための**受入体制の構築を進めます。**

○新たな取組の方向として、ICTを活用し、生活環境や就労環境の整備に努め、良質な暮らしの環境づくりを進めます。

| 数値目標 | 基準値 | | 目標値 | |
|---------------|---------------|------|---------|---------|
| 社会動態による年間増加者数 | H21-H25 平均 | 43 人 | H27-H31 | 各年 30 人 |

(2) 施策体系



(3) 具体的な施策内容

①地方移住の推進

(ア) 支援体制の構築

移住ナビの活用やシティプロモーションなどにより、那珂市への移住を検討している人への相談窓口を開設し、情報発信体制の強化を図ります。

| 重要業績評価指標：K P I | | | | |
|----------------|-----|----------------|---------|-------|
| 指標 | 現状値 | | 目標値 | |
| 移住相談件数 | H26 | 一件 | H28-H31 | 平均50件 |
| 具体的な事業 | | | | |
| ○移住相談窓口の開設 | | ○シティプロモーションの推進 | | |

(イ) 地方居住の本格推進

那珂市へ移住する際の住宅費助成、空き家への転入に要する改修費用の助成を図るとともに、地元金融機関などと連携して移住を推進します。

| 重要業績評価指標：K P I | | | | |
|-------------------|-----|---------------|---------|-------|
| 指標 | 現状値 | | 目標値 | |
| 住宅助成制度利用件数 | H26 | 一件 | H28-H31 | 累計50件 |
| 具体的な事業 | | | | |
| ○子育て世帯への住宅助成制度の導入 | | ○地元金融機関などとの連携 | | |

(ウ) 二地域居住の推進

ひまわりフェスティバルや「日本のさくら名所100選」に選ばれた静峰ふるさと公園で行う八重桜まつりなどのイベントを通して、交流人口の増加を図るとともに、首都圏からの移住希望者に対して、茨城県と連携して二地域住居を推進します。自然豊かな環境や空き店舗を活用し、東京の仕事をそのまま地方で続けられるという、テレワーク本来の特性をいかしたサテライトオフィスの導入に努めます。

| 重要業績評価指標：K P I | | | | |
|------------------------|-----|-----------|-----|------|
| 指標 | 現状値 | | 目標値 | |
| 観光入込客数 | H25 | 28万8千人 | H31 | 30万人 |
| 具体的な事業 | | | | |
| ○いばらき移住・二地域居住推進協議会への参加 | | ○テレワークの推進 | | |

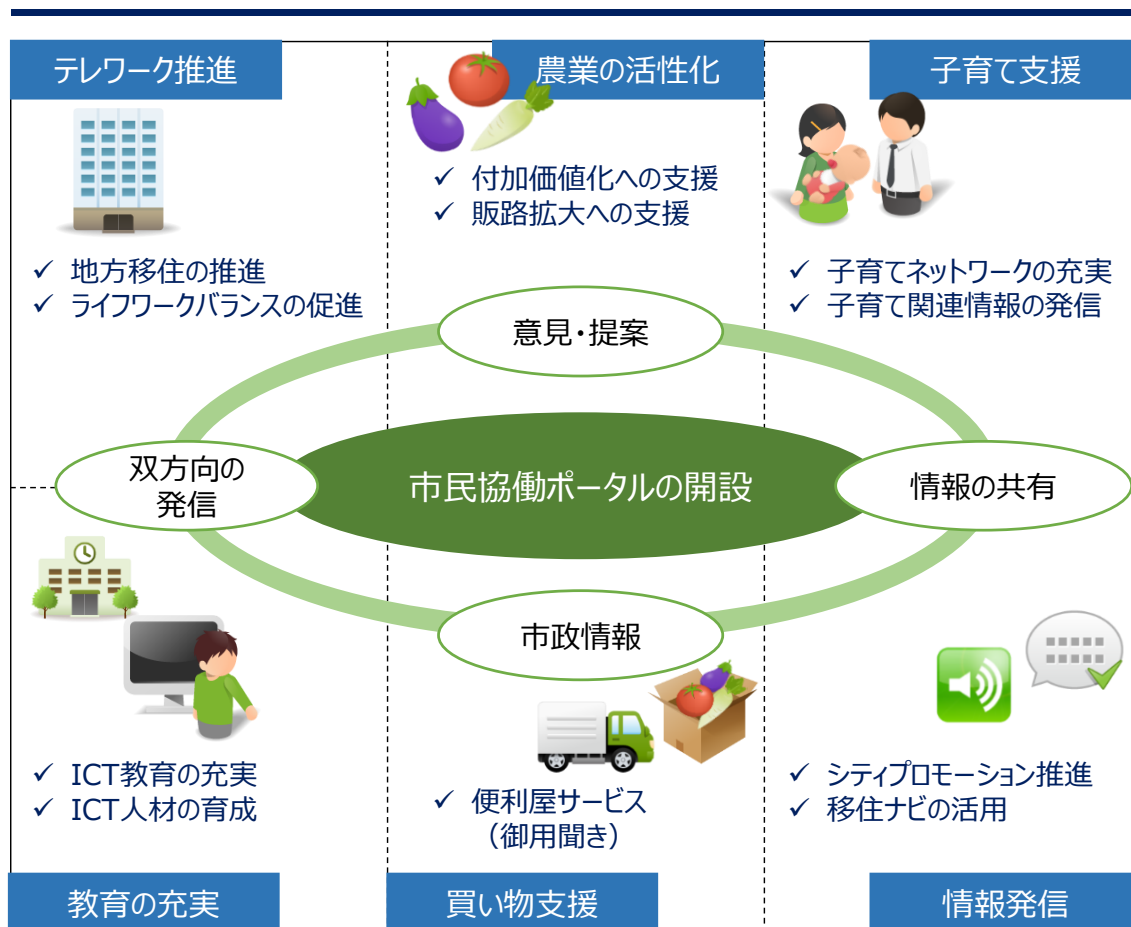
② ICTの活用による地域の活性化

(ア) ICT活用による生活利便性の向上推進

市民や転入者の生活の利便性の確保するため、買物支援、子育て支援や情報活用能力を育むためのICT教育の充実などの生活サービスの活性化を図ります。

| 重要業績評価指標：KPI | | | | |
|----------------|-----|---------------|-----|--------|
| 指標 | 現状値 | | 目標値 | |
| サービス利用者数 | H26 | 一人 | H31 | 1,500人 |
| 具体的な事業 | | | | |
| ○便利屋サービス（御用聞き） | | ○子育てネットワークの充実 | | |
| ○ICT教育の充実 | | | | |

ICT活用イメージ（例）



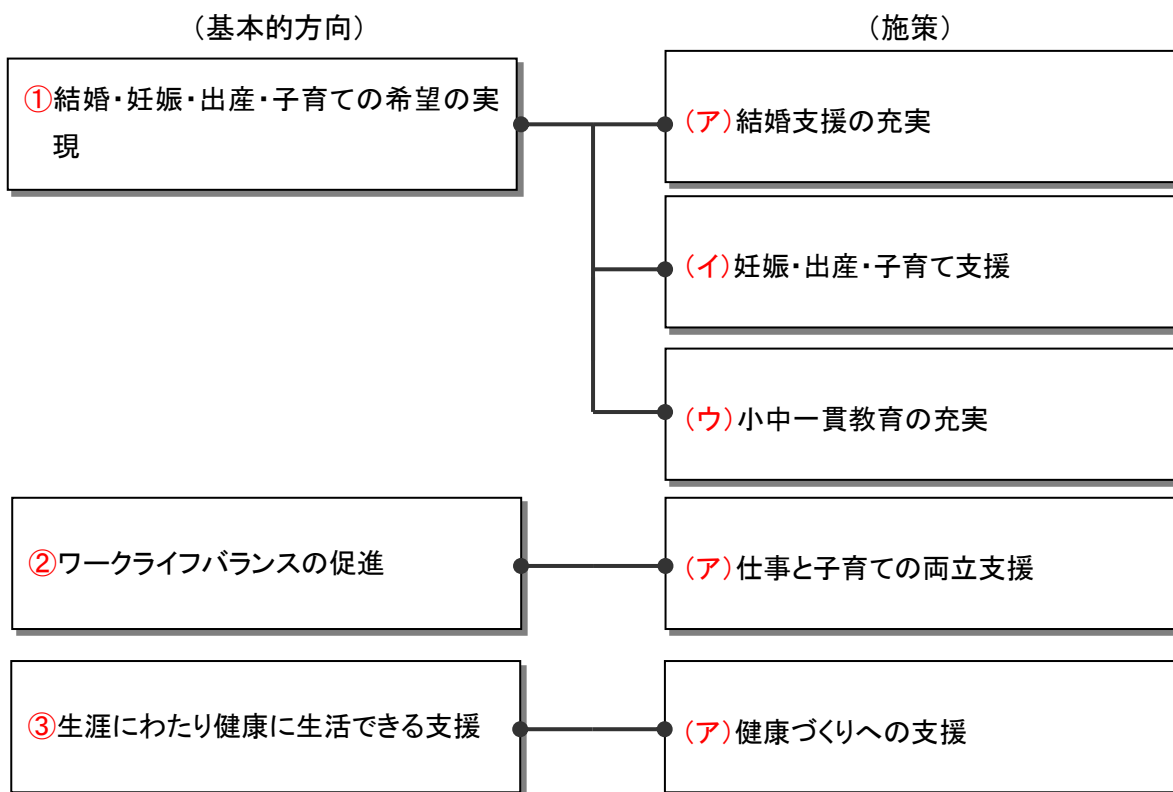
戦略3 「結婚・出産・子育て応援戦略」

(1) 基本的な方向

- 合計特殊出生率の低下は、未婚化・晩婚化の進展と、それに伴う子どもの数の減少に起因していることから、結婚を望む若者の結婚活動への支援を積極的に行います。
- 子育て世代に対しては、子どもを産み育てたいと望む夫婦が、安心して子どもが産めるように、子どもの健康や教育にかかる費用を支援します。
- 子育て世代に魅力的なまちづくりを進めるには、「子どもの健康」を守る取組と「子育て支援」の展開が重要です。子どもが健やかに成長できるような制度の充実を図ります。
- 子育てのストレスや不安の軽減、地域からの孤立化を予防するため、子育て支援の拠点を中心とした地域ぐるみの子育て支援対策の強化を図り、妊娠期からの切れ目ない子育て支援を提供します。また、仕事と子育ての両立ができるように、多様な保育ニーズへの対応や女性が働きやすい環境づくりを進め、安心して子育てができる環境を整えます。
- 次代を担う子どもたちの個性や創造性を大切にし、将来必要な「生きる力」と「豊かな心」、「ふるさとに対する愛郷の心」を育むため、小中一貫教育を推進し、義務教育修了段階までの切れ目のない教育環境を形成し、将来においても那珂市に住みたいという意識を高めます。
- 健康は大切な財産です。楽しく子育てをし、いきいきとした地域生活を送るのに重要な健康寿命を延ばすことができるように、市民の健康管理への意識を高めます。

| 数値目標 | 基準値 | | 目標値 | |
|----------------|---------------|-------|---------|----------|
| 年間出生者数（5 か年平均） | H21-H25 平均 | 390 人 | H27-H31 | 各年 400 人 |

（２）施策体系



（３）具体的な施策内容

①結婚・妊娠・出産・子育ての希望の実現

(ア) 結婚支援の充実

結婚を望む若者の支援などを積極的に展開し、いばらき出会いサポートセンターとの連携を図ります。また、結婚、子育てなどへの意識向上のための「結婚フォーラム」などのライフプラン教育を推進します。

| 重要業績評価指標：K P I | | | | |
|-----------------|-----|--------------|-----|---------|
| 指標 | 現状値 | | 目標値 | |
| カップル成立数 | H26 | 一組 | H31 | 累計 40 組 |
| 具体的な事業 | | | | |
| ○ふれあいパーティーの開催支援 | | ○ライフプラン教育の実施 | | |

(イ) - (I) 妊娠・出産・子育て支援（費用の負担軽減）

経済的理由により、理想の子ども数を持たない世帯が多いことから、多子世帯への支援の強化、各種手当などの支給、医療費、健診費用などの助成を引き続き実施し、子育て費用の軽減を図ります。

| 重要業績評価指標：K P I | | | | |
|---------------------------|------------|-----|---------|--------|
| 指標 | 現状値 | | 目標値 | |
| 安心して子どもを産み育てられると感じている人の割合 | H25 | 45% | H28-H31 | 平均 50% |
| 具体的な事業 | | | | |
| ○多子世帯の保育料の軽減 | ○小児マル福の助成 | | | |
| ○乳児健診費用の助成 | ○妊婦健診費用の助成 | | | |

(イ) - (II) 妊娠・出産・子育て支援（子どもの健康）

妊娠期から出産前後の相談体制の強化、子どもの成長を保護者が理解し子育てできるような健診、相談事業などの充実、予防接種週間の設定や費用の一部助成による接種率の向上を目指し、子どもの健康づくりに取り組みます。

| 重要業績評価指標：K P I | | | | |
|----------------|---------------|------|---------|--------|
| 指標 | 現状値 | | 目標値 | |
| 不妊治療者数 | H25 | 24 人 | H31 | 30 人 |
| 予防接種率 | H25 | 55% | H28-H31 | 平均 60% |
| 具体的な事業 | | | | |
| ○不妊治療費助成事業 | ○妊婦健康教育・保健指導 | | | |
| ○乳児家庭全戸訪問 | ○乳幼児健康診査・健康相談 | | | |
| ○子どもの感染症予防対策 | | | | |

(イ) - (III) 妊娠・出産・子育て支援（地域での支援・生活環境）

子育て世帯が不安なくゆとりを持って子育てができるように、家庭や地域で協力し合う子育て支援サービスの提供に加え、子育てボランティアの育成に努めます。また、子育てしやすい住環境を整え、まちの魅力向上に取り組みます。

| 重要業績評価指標：K P I | | | | |
|-------------------|---------------|----------|-----|----------|
| 指標 | 現状値 | | 目標値 | |
| 子育て支援センター利用者数 | H25 | 13,000 人 | H31 | 13,000 人 |
| 具体的な事業 | | | | |
| ○地域子育て支援サービスの実施 | ○子育てボランティアの育成 | | | |
| ○子どもが安心して遊べる場所の整備 | | | | |

(ウ) 小中一貫教育の充実

小学校と中学校の連携により、義務教育9年間を通して一貫して子どもたちを育てていくなかで、「英語教育」、「ふるさと教育」や「キャリア教育」を推進し、那珂市で教育を受けた子どもたちが自分らしい生き方や自立を目指すとともに、将来自分の子どもにも那珂市で教育を受けさせたいと思えるような教育環境を提供します。

| 重要業績評価指標：K P I | | | | |
|-----------------|------------|----|-----|----|
| 指標 | 現状値 | | 目標値 | |
| 小中一貫教育による新たな取組 | H26 | 一件 | H31 | 5件 |
| 具体的な事業 | | | | |
| ○小中一貫教育推進事業 | ○ふるさと教育の充実 | | | |
| ○小学校低学年への英語教育拡大 | | | | |

②ワークライフバランスの促進

(ア) 仕事と子育ての両立支援

市民のニーズに合わせ低年齢児保育や放課後児童クラブの拡大を図るなど保育サービスの拡充を図ります。

関係機関と連携し、若者のキャリアアップや再就職を支援し、仕事と子育てを両立できる働き方を可能にする環境づくりを後押しします。

| 重要業績評価指標：K P I | | | | |
|----------------|-----------------------|------|-----|------|
| 指標 | 現状値 | | 目標値 | |
| 放課後児童クラブ定員数 | H25 | 555人 | H31 | 748人 |
| 具体的な事業 | | | | |
| ○低年齢児保育の受入枠の拡大 | ○放課後児童クラブの受入枠拡大 | | | |
| ○再就職・再雇用支援の強化 | ○人材育成プログラムへ参加する企業への支援 | | | |

③生涯にわたり健康に生活できる支援

(ア) 健康づくりへの支援

子育てをするには食育や健康管理も重要な要素です。家庭や地域で協力し合い、楽しく子育てし、いきいきとした地域生活を送るため、市民のニーズに合わせた各種教室や健康診断などの機会を提供します。

| 重要業績評価指標：K P I | | | | |
|----------------|-----|----------|---------|--------|
| 指標 | 現状値 | | 目標値 | |
| 健康と考えている市民の割合 | H25 | 78% | H28-H31 | 平均 80% |
| 具体的な事業 | | | | |
| ○地域スポーツクラブの支援 | | ○学級講座の充実 | | |
| ○生きがいと健康づくり支援 | | ○各種検診事業 | | |
| ○特色ある給食の推進 | | | | |

戦略4 「時代にあった地域の創造戦略」

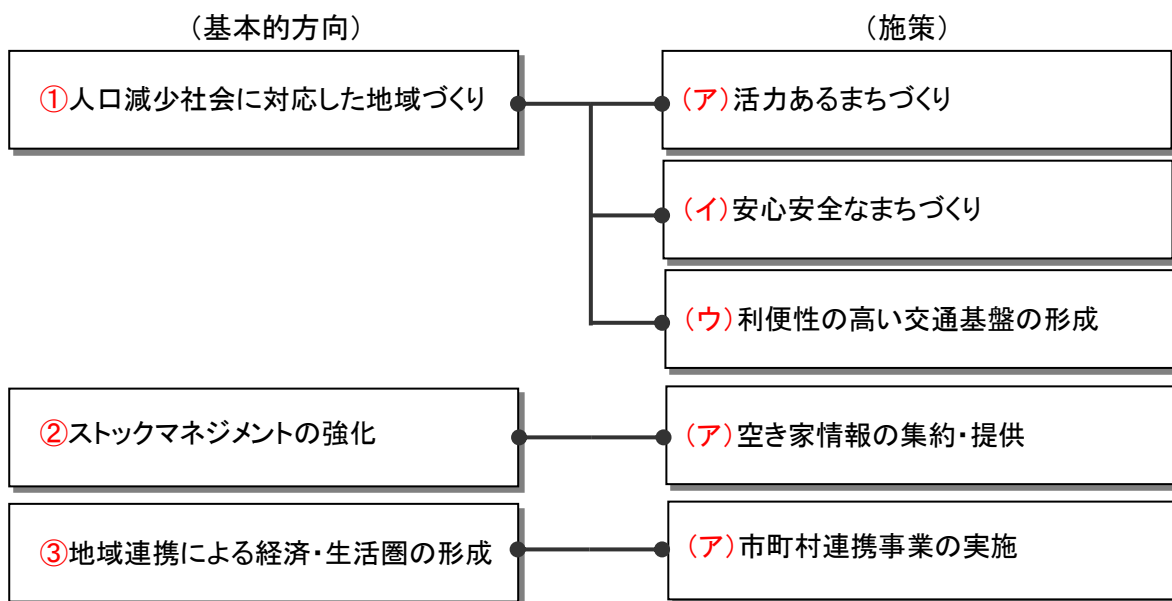
(1) 基本的な方向

- 市民や転入者の住みよい環境づくりには、基盤となるだれもが参加しやすい市民コミュニティが必要です。現下の人口減少によるコミュニティ力の低下を克服するため、地域コミュニティを支える仕組みを作るとともに、特色ある活動に取り組む団体への支援を実施し、魅力ある地域の創造を目指します。
- 将来人口推計を踏まえ、効率性に配慮した都市の機能性を高めるため、市街地では住商複合市街地のにぎわいの向上、周辺集落では集落機能の維持に努めます。
- 市民や転入者にとって、安心・安全なまちは居住の大前提であり、地域と行政が連携し、地域の安心・安全のための活動を支援します。
- 交通弱者の移動快適性を確保するため、デマンド交通などの利便性向上および水郡線駅の利用を促進します。
- 人口減少に対応した公共施設・インフラの維持管理に取り組みます。また、民間資本の空き家・空き店舗の実態を把握し、有効活用を推進します。
- 広域的な取組として、水戸市を中心市とする県央地域9市町村間で締結する定住自立圏形成協定（※）に基づいた経済・生活圏の形成を進めます。

| 数値目標 | 基準値 | | 目標値 | |
|---------------|-----|-------|-----|-------|
| 住みやすいと思う市民の割合 | H23 | 81.7% | H31 | 85.0% |

※定住自立圏形成協定：定住自立圏形成協定は、中心市宣言を行った「中心地」とこの中心市宣言に賛同した「近隣市町村」が、連携を図りながら、相互の役割分担を行い、暮らしに必要な生活機能を確保し、魅力にあふれ、住民が安心して暮らすことができる定住自立圏を形成することに関して必要な事項を定めるものです。

(2) 施策体系



(3) 具体的な施策内容

①人口減少社会に対応した地域づくり

(ア) 活力あるまちづくり

地域の健全な発展とコミュニティ活動の充実を図るため、地域の担い手がそれぞれの経験をいかし、高齢者や子育て世帯の支援や地域の活動に参加できる「たまり場」設置や、地域資源などをいかした活動を実施している市民活動団体および市民自治組織への支援を行います。

市街化区域への商業施設の誘導を後押しし、魅力的な市街地を形成するとともに、人の流れをつくり、雇用も促進します。市街化調整区域においては、集落および地域のコミュニティを維持するため区域指定制度（※）を導入します。

| 重要業績評価指標：K P I | | | | |
|---------------------|------------|------------------|---------|-----------------------|
| 指標 | 現状値 | | 目標値 | |
| まちづくり活動に参加している市民の割合 | H25 | 42% | H28-H31 | 平均 50% |
| 区域指定制度による宅地増加面積 | H26 | — m ² | H29-H31 | 10,000 m ² |
| 具体的な事業 | | | | |
| ○市民活動への支援 | ○たまり場設置事業 | | | |
| ○地域資源の活用 | ○商業施設の立地促進 | | | |
| ○区域指定制度の導入 | | | | |

※都市計画法第34条11号、12号に基づき、市街化調整区域において次の3つの視点により区域を指定することで一定の開発が認められる制度です。視点：①集落機能の維持を目的とすること。②連担性を有しつつ立地する住宅を中心に「居住ゾーン」を明確化すること。③基盤整備（上下水道、雨水、道路等）に配慮すること。

(イ) 安心・安全なまちづくり

地域における防災防犯体制を強化するため、自主防災組織の活動を支援するとともに、地域と行政が連携した安心・安全なまちづくりを目指します。

| 重要業績評価指標：K P I | | | | |
|----------------|-----|-------|-----|-------|
| 指標 | 現状値 | | 目標値 | |
| 自主防災組織数 | H26 | 52 組織 | H31 | 69 組織 |
| 具体的な事業 | | | | |
| ○地域防災力の強化 | | | | |

(ウ) 利便性の高い交通基盤の形成

デマンド交通などの運行本数や運行日の増加を図るとともに、県央地域と連携して、広域的な公共交通ネットワークの構築について検討を進めます。また、水郡線各駅の駐輪場などについても計画的に整備を進めます。

| 重要業績評価指標：K P I | | | | |
|----------------|-----|------------|-----|----------|
| 指標 | 現状値 | | 目標値 | |
| ひまわりタクシー利用者数 | H26 | 14,549 人 | H31 | 17,000 人 |
| 具体的な事業 | | | | |
| ○デマンド交通運行事業 | | ○公共交通の利用促進 | | |

②ストックマネジメントの強化

(ア) 空き家情報の集約・提供

人口減少に対応し、公共施設のあり方を見直し、公共施設の空きスペースを有効活用し、維持管理費の軽減を図ります。また、**宅地建物取引業協会**などと連携し空き家情報を提供し、資源の有効活用と移住の促進を図ります。

| 重要業績評価指標：K P I | | | | |
|----------------|-----|----------|---------|---------|
| 指標 | 現状値 | | 目標値 | |
| 情報を提供する空き家件数 | H26 | 一件 | H28-H31 | 累計 50 件 |
| 具体的な事業 | | | | |
| ○公共施設の維持管理費の軽減 | | ○空き家調査事業 | | |
| ○空き家の情報提供・利活用 | | | | |

③地域連携による経済・生活圏の形成

(ア) 市町村連携事業の実施

水戸市を中心市とするひたちなか市、笠間市、那珂市、小美玉市、茨城町、大洗町、城里町、東海村の県央地域 9 市町村による定住自立圏形成協定に基づき、医療・福祉・地域公共交通などの各分野において連携・役割分担をしながら、経済・生活圏の形成を促進します。

| 重要業績評価指標：K P I | | | | |
|------------------|-----|----|---------|--------|
| 指標 | 現状値 | | 目標値 | |
| 定住自立圏形成における事業の連携 | H26 | 一件 | H28-H31 | 累計 7 件 |
| 具体的な事業 | | | | |
| ○県央地域定住自立圏構想の促進 | | | | |



ひまわり大使
ナカマロちゃん



那珂市
NAKA CITY